

リアホナ



主は
生きておられます!
8ページ

学ぶこと——神聖な探求, 26ページ

学校で成功するための簡単な秘訣, 36ページ

2009年4月号の発行は、末日聖徒イエス・キリスト教会の出版物です。ISSN 1344-8595

成人

大管長会メッセージ

- 2 真実の教義を教える
ヘンリー・B・アイリング管長

家庭訪問メッセージ

- 25 聖文を熱心に調べる

特集

- 8 主はよみがえられた
新旧の世界に描かれた復活された主の御姿は、主がよみがえりであり命であられることを証しています。

- 14 贖いはあなたにとってどんな意味がありますか

セシル・O・サミュエルソン・ジュニア長老
贖いはわたしたちの苦痛、罪、試練、失意を包括的に救済する唯一の方法です。

- 20 良い羊飼いの声

シェリー・カートライト・ジッパリアン
良い羊飼いの声を聞き分けられるようになることは永遠の安全を得るために欠かせません。

- 26 学問と末日聖徒

ダリン・H・オークス長老およびクリステン・M・オークス
二人の対照的な経験を例にして、オークス長老と姉妹は末日聖徒が学ぶことの重要性を教えています。

- 38 希望の光をともす マイケル・R・モリス

ブラジルの末日聖徒が永代教育基金を通して得た人生の祝福

シリーズ

- 44 末日聖徒の声

読み聞かせ、聖文を読む力、伝道に出る決意、死が近い父のための祈り

- 48 今月号の活用法

家庭の夕べのためのアイデア、今月号に採り上げられているテーマ、実りある家庭の夕べ

表紙
表紙——「エマオのキリスト」ウォルター・レーン画
裏表紙——写真/ジョン・ルーク

青少年

特集

- 32 2マイルの精神 ポール・バンデンバーグ
あともう少し努力することでどれほど成果が上がるでしょうか。

- 36 夜遅くまで勉強しない
シンシヤ・ペロニカ・サラザール・マルケス
福音の一つの原則に従うことで、学校でもうまくいき、バランスの取れた生活ができました。

シリーズ

- 21 ポスター——わたしに学びなさい

- 22 質疑応答

わたしの両親は教会に出席していません。両親の支援がなくても信仰を強く保つにはどうしたらよいでしょうか。

- 24 教えに教え——ヤコブの手紙1:5-6

預言者ジョセフを森へ導いたこの聖句は、皆さんが答えを見いだすときにも役立ちます

- 43 御存じでしたか?



末日聖徒イエス・キリスト教会公式国際機関誌(日本語版)
大管長会:トーマス・S・モンソン、ヘンリー・B・アイリング、
ディーター・F・ウークトドルフ

十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、
ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、
M・ラッセル・バラード、リチャード・G・スコット、
ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、
デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック、
D・トッド・クリストファソン

編集長:スベンサー・J・コンティ

顧問:ゲリー・J・コールマン、ケネス・ジョンソン、菊地良彦、
W・ダグラス・ジャムウェー

実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター:ビクター・D・ケーブ

編集主任:ラリー・ヒラー

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボグ

編集主幹:R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド、アダム・C・オルソン

共同編集者:ライアン・カー

編集補佐:スザン・パレット

編集スタッフ:マシュー・D・フリットン、デビッド・A・エドワーズ、
ライン・ポーター・ガント、キャリー・カステン、ジェニファー・マ
デー、メリッサ・メリル、マイケル・R・モリス、サリー・J・オデカー
ク、ジュディス・M・パーラー、ジョシュア・J・パーキ、チャド・E・
ファレス、ジャン・ピンボロ、リチャード・M・ロムニー、ドン・L・サー
ル、ジャネット・トーマス、ポール・バンデンバーグ、ジュリー・ワーデル

主任秘書:ローレル・トイスマー

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・パン・カンペン

制作主幹:ジェン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:カリ・R・アロウ、コレット・ネベカー、ハワード・G・ブ
ラウン、ジュリー・バーデット、トーマス・S・チャイルド、レジナルド・J・クリス
テンセン、キム・フェンスターマカー、キャスリーン・ハワード、エリック・P・
ジョンセン、デニス・カービー、スコット・M・ムーイ、ギニー・J・ニルソン

製版:ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター:クレグ・K・セドウィック

配送ディレクター:ランディ・J・ベンソン

日本語版翻訳課長:ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙」でお申し込みになるか、郵便振替
(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-
41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵
送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ
……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・
キリスト教会 管理本部配送センター 電話:03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)
半年予約 1,200円(送料共)
普通号/大会号 200円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA
電子メール: liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、
以下の言語で出版されています。

アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウ
クライナ語、ウルドゥー語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジ
ア語、ギリシャ語、キルギス語、クロアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェ
ーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、タヒチ語、
タミル語、チェコ語、中国語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日
本語、ブルウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、ヒスラマ語、ヒンディー語、フィ
ジー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、
ポルトガル語、マラヤラム語、マダガスカル語、モンゴル語、ラトビア語、リト
ニア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2009 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷/日本
「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において
一時的に、また非常利目的で使用される場合は複写することができます。
視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場
合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、
Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール
cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で掲載
されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音ライブラリ)をクリック
してください。その他の言語は「Languages」(言語)をクリックしてください。

合衆国とカナダの読者の方へ:

2009年4月号第11巻第4号「リアホナ」(USPS331)英語版(ISSN
1080-9554)は、末日聖徒イエス・キリスト教会(50 E. North Temple
Street, Salt Lake City, UT 84150)の月刊誌です。合衆国での購読料は
年間10ドル、カナダでは12ドル(税別)です。(送料込み/定期刊行物郵送料
は別トレーシングティで納められています。)所変更は60日前にご連絡くだ
さい。最近の号の宛名ラベルを同封し、新旧発送先を明記してください。合衆
国とカナダでの購読申し込みは、下記の別トレーシングティ配送センターにお送りくだ
さい。購読に関するお問い合わせ:1-800-537-5971。クレジットカード
(ビザ、マスターカード、アメリカンエクスプレス)のご注文は電話で承ります。
(カナダ郵便情報:出版承認番号40017431)

郵便局長殿:住所変更がございましたらお知らせください。連絡先:Salt
Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368,
Salt Lake City, UT 84126-0368

こ ども 子 供

F2 予言者の声
天のおん父のもとに無事もどる
ディーター・F・ウークトドルフ管長

F8 特集
質問と答え— 教会の組織について

F12 学びたくて リーナ・ハーパー

シリーズ
F4 分かち合いの時間—
イエス・キリストはわたしのすくいぬし
シェリル・エスプリン

F6 小さなお友達へ— 予言者の約束
オクタビオ・テノリオ長老

F10 よげんしゃ
ジョセフ・スミスの
しょうがいから—
てきとの間にへいわを作り出す

F15 音楽— バプテスマをうけたい

F16 色をぬりましょう



「フレンド」表紙
絵/ジム・マドセン



今月号のどこかに隠れている
セブアノ語のCTRリングを
捜しましょう。
選べ、正しいページを!

読者からの便り

成長を促す

日々の生活に『リアホナ』があること
に感謝しています。わたしたち家族は
家庭の夕べのレッスンで、また、求道
者の方に教会のことをもっと知って
いただくために『リアホナ』を使ってい
ます。『リアホナ』はわたしがより善い人
になるために役立っています。記事の
おかげでもっと善い行いをしたいとい
う強い望みが生まれます。そして記事
に書いてある教えについて目標を作
ります。わたしはイエス・キリストの回
復された福音が大好きです。福音は
毎日成長する機会を与えてくれます。

ブラジル, グラジエレ・ルイザ・ラモス・デ・フレイタス

霊的な読み物

『リアホナ』は大きな祝福です。読む
ことでたくさん喜びが得られます。
わたしは時々『リアホナ』を人に贈りま
す。ほかの人にも読んでもらい、霊的
な経験をしてほしいのです。とても好
きなお話は、2008年4月号の『フレンド』
に掲載されたトーマス・S・モンソン大
管長の「3つの橋」です。大管長のお
話はすべて、わたしたちが霊的な平安
を感じ、主の戒めに従って生活するた
めに欠かせません。『リアホナ』は、す
ばらしい霊的な読み物です。

ドミニカ共和国, エレノア・グリマルディ



真実の教義を 教える

大管長会第一顧問

ヘンリー・B・アイリング管長

この世が造られる前から、光と闇、善と悪の間の戦いが続いています。その激しさは衰えを見せず、犠牲者は増え続けているようです。滅ぼす者は神のすべての子供たちを不幸にしようとしています。わたしたちの愛する家族の中には、滅ぼす者の力に翻弄されている人がいます。わたしたちの多くは、眠れぬ夜を過ごしています。わたしたちは危機に瀕した人々の周囲に渦巻く力に対抗して、善の力を増し加えようと懸命に努力してきました。わたしたちは彼らを愛し、最高の模範を示そうとしてきました。そして、彼らのために祈り求めてきました。昔、ある賢明な預言者が、わたしたちがあまり重要視しておらず、そのためにほとんど用いていない、もう一つの力について勧告しました。

アルマは残虐な敵に滅ぼされようとしていた民の指導者でした。民が危険に直面していたため、アルマにはすべてのことを行う余裕がなく、何を優先するかを選択しなければなりません。とりでを築くことも、軍隊を訓練することも、武具を作ることもできたでしょう。しかし、神の助けがなければ勝利の望みはありません。そのためには民が悔い改めることが必要でした。そこでアルマはまず、一つの霊的な事柄を試みることにしました。「ところで、御言葉を説き教えることは民に正しいことを行わせるのに大きな効果があり、まことにそれは、剣やそのほか、これまで民に起こったどのような

ことよりも民の心に力強い影響を及ぼしたので、アルマはこの度も神の言葉の力を使うのが望ましいと思った。」(アルマ31:5)

思いと心を開く

神の言葉とは、イエス・キリストと主の預言者たちによって教えられた教義です。アルマは教義の言葉には偉大な力があることを知っていました。教義の言葉は民の思いを開き、目に見えない霊的な事柄を見せてくれます。教義の言葉はまた、わたしたちの心を開き、神の愛を実感し、真理を愛せるようにしてくれます。教義と聖約第18章で救い主は、宣教師として御自身に仕えることを望んだ人々に御自身の教義を授けるときに、目と心を開くというこの二つの力の源を使われました。伝道に行くべき心が揺れている若い息子のことを考えながら聞いてください。主は二人の僕に向かってこのように教えられました。皆さんもこのように愛する息子に主の教義を教えることができるのです。

「さて、オリバー・カウドリよ、わたしはあなたと、またデビッド・ホイットマーに戒めとして告げる。見よ、わたしはどこにいる人でもすべての人に悔い改めるように命じる。わたしは、わたしの使徒パウロに語ったようにあなたがたに語る。あなたがたはまさに、パウロが召されたと同じ召しに召されているからである。

人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい。」(教義と聖約18:9-10)

主はまず、どれほど二人を信頼しているかを述べておられます。そして、御父と御自身がすべての人をどれほど愛しておられるかを述べて、



民が危険に
直面していたため、
アルマはまず、
民を強めるために
一つの霊的な事柄を
試みることにしました。
「御言葉を
説き教えることは
民に正しいことを
行わせるのに
大きな効果が
あ[った]……ので、
アルマはこの度も
神の言葉の力を
使うのが望ましい
と思った。」

二人の心を引きつけておられます。次に主の教義の土台を述べ、なぜわたしたちが主を愛するべきかを説明しておられます。

「見よ、主なるあなたがたの贖い主は、肉体において死を受けた。それによって、すべての人が悔い改めて自分のもとに来ることができるように、主はすべての人の苦を引き受けた。

そして、悔い改めを条件として、すべての人を自分のもとに導くことができるように、主は再び死者の中からよみがえったのである。

人が悔い改めるとき、主の喜びはいかに大きいことか。」(教義と聖約18:11-13)

彼らの心を開くために御自身の使命に関する教義を教えた後で、主は彼らに戒めを与えられました。「あなたがたはこの民に悔い改めを叫ぶために召されている。」(教義と聖約18:14)

最後に、主は彼らの目を開き、彼らに幕のかなたを見させてくださいます。主は彼らにもわたしたちにも将来の状態を見せてくださいます。偉大な救いの計画に示されていてまだ到達していない将来の状態です。主はわたしたちに、すべてを犠牲にしても惜しくないほどすばらしい交わりについてこう教えておられます。

「あなたがたはこの民に悔い改めを叫ぶことに生涯力を尽くし、一人でもわたしのもとに導くならば、わたしの父の王国で彼とともに受けるあなたがたの喜びはいかに大きいことか。

さて、あなたがたがわたしのもとに導いてわたしの父の王国に入れるようにした、一人の人とともに受けるあなたがたの喜びが大きいならば、もし多くの人をわたしのもとに導くとすればその喜びはいかに大きいことか。」(教義と聖約18:15-16)

このわずかな言葉の中で主は、わたしたちは主の愛を感じるために心を開かなければならないという教義を教えておられます。また、真理の御霊に照らされなければ見られない霊的な現実を見るために、目を開かなければならないという教義も教えてくださっています。

どのように教えるべきか

目と心を開く必要があることから、どのように教義を教えるなくてはならないかが分かります。教義は、「それは真実である」という聖霊の証によって力を得ます。教えを聞く人々が静かな細い声によるかすかな導きを受けられるよう、わたしたちは彼らをできるかぎり備えます。これには少なくともある程度、イエス・キリストへの信仰が必要になります。主の御心に従うために、少なくともある程度の謙虚さと喜んで行う姿勢が必要です。皆さんが教えようとしている人は、そのどちらもほとんど持ち合わせていないかもしれません。しかし、信じたいと望むように励ますことができます。さらに、皆さんは教

義の持つもう一つの力を信頼することができます。真理には(聞く人がそれを受け入れられるように)自ら道を開く力があります。単に教義を聞くだけの人にも、その心に信仰の種がまかれます。そして、イエス・キリストを信じる信仰の種は、ほんの小さな種であっても御霊を招き入れることができるのです。

わたしたち自身の備えについては、自分でできることがもっとたくさんあります。聖文にある神の言葉をよく味わい、生ける預言者の言葉を研究することができます。自分自身や教える人に御霊を招くために断食して祈ることもできます。

わたしたちには聖霊が必要ですから、真実の教義から逸脱して教えることのないように注意しなければなりません。聖霊は真理の御霊です。聖霊からの確認は、推論や個人的な解釈を避けることによって授けられるのです。しかし、これは一筋縄ではいきません。皆さんは、皆さんが感化しようとしている人のことを愛しています。せっかく教えた教義に相手に関心を示さないと、何か目新しいことや、あっと驚くことを話したいという誘惑に駆られます。しかし、真実の教義だけを教えるように気をつけるときに、わたしたちは聖霊を伴侶として招くことができます。

偽りの教義に近づかない確かな方法は、分かりやすく教えることです。分かりやすければ偽りの教義に近づく心配はありませんし、分かりやすいからといって失われるものはほとんどありません。それは、最も大切な教義を幼い子供に教えるように救い主が命じておられることから分かります。聞いてください。主はこう命じておられます。「さらにまた、シオンにおいて、または組織されているそのいずれかのステークにおいて、子供を持つ両親がいて、八歳のときに、悔い改め、生ける神の子キリストを信じる信仰、およびバプテスマと按手による聖霊の賜物の教義を理解するように彼らを教えなければ、罪はその両親の頭にある。」(教義と聖約68:25)

わたしたちは、イエス・キリストの教義を幼子にも分かるように教えることができます。ですから、神の助けを借りて、救いの教義を分かりやすく教えることは可能なのです。

幼いうちに始める

わたしたちは子供たちに対して大いなる機会を持っています。教える最良の時は、まだ子供が幼くてこの世の敵の誘惑を受けない時期、個人的な煩悩がじゃまして真理の言葉が耳に入りにくくなるずっと前の時期です。

賢明な親は、子供を集めてイエス・キリストの教義を教える機会を決して逃さないでしょう。そうした瞬間は、子供たちが敵から攻撃を受ける時間に比べると非常にまれです。教義の力が子供の生活の中に入り込む時間が1時間あるとすれば、救いの真理を否定し無視するよう促す言葉や映像にさら



される時間は何百時間もありません。

わたしたちは疲れすぎて教義を教える備えを
するどころではなくなりほしくないだろうか、子
供を引きつけるには子供が喜ぶことだけをし
た方がいいのではないだろうか、うちの親は説
教ばかりしていると思いはじめているのでは
ないだろうか、などと心配する必要はありませ
ん。大切なのは、次のように自問することです。
「教える時間もチャンスも非常に限られている。
しかし、子供たちの信仰は必ず攻撃される。こ
のような状況の中で、子供を強めておくには、ど
のような言葉で教義を伝えたらよいか。」
今日皆さんが語る言葉は、子供の記憶にとど
まるかもしれません。そして、今日という日はす
ぐに過ぎ去ってしまうのです。

わたしたちは年月をかけて、最善を尽くして教
義を教えますが、こたえてくれない子供もいま
す。悲しいことです。でも、聖典にある家族の記
録は希望を与えてくれます。息子アルマやエノ
スを考えてみてください。重大な局面に当たり、
彼らは父親の言葉を、イエス・キリストの教義
の言葉を思い起こしました(エノス1:1-4;アル
マ36:16-19参照)。それによって彼らは救わ
れました。同じ神聖な教義について皆さんが教
えることは、子供の記憶に残るのです。

効果の永続する教え

皆さんの心には二つの疑問が忍び寄って来
るかもしれません。自分は人に教えられるほど
教義を知っているのだろうかという疑問と、こ
れまで教えてきたのにあまり良い結果が出てい
ないのはなぜだろうかという疑問です。

わたし自身の家族の中に、ある若い女性の
話があります。彼女は改宗したばかりで、教育
もほとんど受けていなかったのに、勇気をも
って教義を教えようと思いました。彼女が努力
して教えた影響は今なお失われていません。そ
の事実はわたしに、努力が実を結ぶのを根気強
く待つことを教えてくれます。

曾祖母そうそぼのメアリー・ボメリという名の人の話
です。わたしは会ったことはありません。この話
は彼女の孫娘がメアリーから聞いて書き留め
たものです。

メアリーは1830年に生まれました。スイスに
暮らしていた彼女の家族に宣教師が福音を教
えたのは、彼女が24歳のときでした。当時メ
アリーはまだ家族と一緒に生活していました。
小さな農場を営む家族を支えるために布を織
り、それを売っていました。家族は回復された
イエス・キリストの福音の教義を聞いて真実
であると確信し、バプテスマを受けます。メア

教える
最良の時は、
まだ子供が
幼くて
この世の敵の
誘惑を受けない時期、
個人的な煩わづらいが
じゃまして
真理の言葉が
耳に入りにくくなる
ずっと前の時期です。

当時
ベルリンでは、
教会の教義を
教えることが
禁じられていました。
しかしメアリーは、
良い知らせを
自分の胸の内だけに
しまっておくことが
できませんでした。

リーの兄弟たちは伝道に召され、財布も旅の袋も持たずに出て行きました。残った家族は、アメリカに行って聖徒の群れに加わりたいと思い、財産を売り払いました。

しかし、家族全員が行けるだけのお金にはなりませんでした。そこでメアリーは自分が残ることを提案しました。機織りの仕事で生活し、アメリカへの渡航費を蓄えられると考えたのです。彼女はベルリンに行き、ある女性に雇われました。家族の衣服を織る仕事です。メアリーは使用人の部屋で寝起きし、織り機を居間に据え付けました。

当時ベルリンでは、末日聖徒イエス・キリスト教会の教義を教えることが禁じられていました。しかしメアリーは、良い知らせを自分の胸の内だけにしまっておくことができませんでした。女主人と友人たちはいつもメアリーの織り機の周りに集まり、スイス生まれの若い女性の話に耳を傾けました。メアリーは、天の御父とイエス・キリストがジョセフ・スミスに御姿を現されたことと、天使が訪れたことと、モ

ルモン書について話しました。そしてアルマの話のところでは、復活の教義を教えました。

おかげで彼女の機織りの仕事にちょっとした問題が生じました。当時は早死にする子供が多く、集まった女性も子供を亡くしていました。中には何人も子供を亡くしている女性もいました。メアリーが子供は日の栄えの王国を受け継ぎ、母親は亡くなった子供や救い主、そして御父と一緒に再び生活できるという真理を教えると、彼女たちの頬に涙が伝い、メアリーももらい泣きし、その涙でメアリーが織った布がぬれてしまうのです。

メアリーの教えはもっと深刻な問題に発展しました。話したことをだれにも言わないように頼んでおいたのですが、女性たちはその喜ばしい教義を友人たちに教えました。ある晩、扉をたたく音がしました。警官でした。彼らはメアリーを留置場に連行しました。途中メアリーは、翌朝会う判事の名前と、彼が家族持ちかどうか、また、いい父親であり夫であるか尋ねました。警官は苦笑しながら、判事は世俗



ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. この記事の最初の段落を読み、心と思いを開くことによって、どのように人が闇から光に導かれるかを説明する。アイリング管長の曾祖母メアリー・ボメリの話をする。人々が光を見いだせるように、彼女がしたことを話し合う。真実の教義を教えるにはどのような方法があるか家族に述べてもらう。

2. あなたにとって大切な教義を短時間で教えるために、実物や視覚教材を持って行く。(例えば、信仰について話すためにからし種を持って行く、あるいは、命のパンについて話し合うためにパンを一切れ持って行く。) その教義からどのような影響を受けたかを説明する。家族にも自分にとって大切な教義を分かち合うよう勧める。

3. 「どのように教えるべきか」の項に記されている教える原則が理解できるよう、家族を助ける。これらの原則を家庭の夕べで応用するよう勧める。



写真/クリスティーナ・スミス

的な人間であると言いました。

留置場でメアリーは紙と鉛筆をもらい、判事に手紙を書きました。モルモン書に記されているイエス・キリストの復活や霊界のこと、また、最後の裁きの前に人生を振り返る時間が判事にどれだけ残っているか書いたのです。またメアリーは、判事には悔い改めるべきことがたくさんあり、それが家族の心を傷つけ、また判事自身をも悲しませることになると書きつづりました。徹夜で書きました。翌朝、メアリーは手紙を判事に渡してくれるように警官に頼みました。警官は手紙を渡してくれました。

後で警官が判事に呼び出されました。メアリーが書いた手紙は彼女が福音を教えていたこと、すなわち法律を破っていたことの動かぬ証拠となりました。しかし程なく警官がメアリーの独房に戻って来て、告発が取り下げられ、彼女は釈放されたと告げました。彼女はイエス・キリストの回復された福音の教義を教えました。そしてその教えは、彼女自身が投獄されるほど十分に人々の目と心を開きました。そして、判事に悔い改めの教義を宣言したことで釈放されたのです。¹

子孫に影響を及ぼす

メアリー・ボメリの教えに心を動かされたのは、織り機を囲んだ女性たちと判事だけではありません。わたしの父はメアリーの孫です。その父の死期が近づいたある夜、父はわたしに話してくれました。間もなく霊界で喜びの再会ができると言いました。父が確信をもってそのことを語ったとき、パラダイスにある明るい日の光と笑顔を見たような気がしました。

わたしは父に、まだ悔い改めていないことがあるかどうか尋ねました。父はにこりとしました。そしてくすくす笑いながら言いました。「いや、ハル。すべて今までに悔い改めてきたよ。」メアリー・ボメリがあ的女性たちに教えたパラダイスの教義は、その孫にとっても真実でした。メアリーがあ判事に説いた教えは、わたしの父の人生を形作りました。メアリー・ボメリの教えはそれで終わったわけではありません。書き留められた彼女の言葉は、まだ生を受けていない幾世代もの子孫に真実の教義を伝えることでしょう。彼女は、新しい改宗者であっても人に教義を教えられるくらいの知識は持っていると思われました。そのおかげで、これからも子孫の思いと心が開かれ、この戦いにおいて強められていくことでしょう。

皆さんから教義を教えられた子孫は、将来互いに教義を教え合うことでしょう。教義は霊的な事柄に思いを開かせ神の愛に心を開かせるだけではありません。喜びと平安をもたらす教義には、福音を伝えるために口を開かせる力もあるのです。ベルリンのあ的女性たちのように、皆さんの子孫も良い知らせを自分の胸の内だけにしまっておくことはできないでしょう。

わたしは、回復された完全な福音がわたしたちと家族に授けられている時代に生を受けたことに感謝しています。また、救い主がわたしたちを愛する使命をお持ちであること、そして救い主が命の言葉を授けてくださったことに感謝しています。その言葉を愛する人たちと分かち合うことができるようお祈りします。父なる神が生きておられ、御自身のすべての子供たちを愛しておられることを証します。イエス・キリストは肉における神の独り子であり、わたしたちの救い主であります。わたしは主がよみがえられたことを知っています。また、わたしたちはイエス・キリストの福音の律法と儀式に従うことによって洗い清められることを知っています。■

注

1. テレサ・スノー・ヒル, *Life and Times of Henry Eyring and Mary Bommeli* (1997年), 15 - 22参照

主はよみがえられた



上—「主はよみがえられた」デル・パーソン画

祭司長、律法学者たちは、「あざけり、むち打ち、十字架につけさせるために、〔キリストを〕異邦人に引きわたすであらう。そして彼は三日目によみがえるであらう。」(マタイ 20 : 19)

右—「もうここにはおられない」ウォルター・レーン画

「もうここにはおられない。……よみがえられたのである。」(マタイ 28 : 6)



救い主は復活された後、聖地(8-11ページ参照)とアメリカ大陸(12-13ページ)で多くの人を教え導かれました。昔の時代の多くの人^{あかし}は生けるキリストについて証を述べました。現代において預言者ジョセフ・スミスは次のように証しました。「そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』(教義と聖約 76 : 22) 昔の人々の証もこのジョセフの証のようです。



上—「明け方に」エルスベス・ヤング画

「さて、安息日^{あんそくにち}が終って、週の初めの日の明け方に、マグダラのマリヤとほかのマリヤとが、墓を見にきた。」(マタイ 28 : 1)



下—「墓にやって来た3人のマリヤ」ウィリアム・アドルフ・ブーゲロー画

「〔彼女たちは〕右手に真白な長い衣を着た若者がすわっているのを見て、非常に驚いた。」(マルコ16:5)



上—「復活の朝」ウィリアム・F・ホイッター・ジュニア画

「イエスは彼女に『マリヤよ』と言われた。マリヤはふり返って、イエスにむかってヘブル語で『ラボニ』と言った。それは、先生という意味である。」(ヨハネ20:16)



上—「園の墓」リンダ・カーリー・クリステンセン画

「主の使が天から下って、そこにきて石をわきへころがし〔た〕。」(マタイ28:2)

右—「墓へと走る弟子のペテロとヨハネ」ダン・バー画

「そこでペテロともうひとりの弟子は出かけて……ふたりは一緒に走り出したが、そのもうひとりの弟子の方が、ペテロよりも早く走って先に墓に着〔いた〕。」(ヨハネ20:3-4)



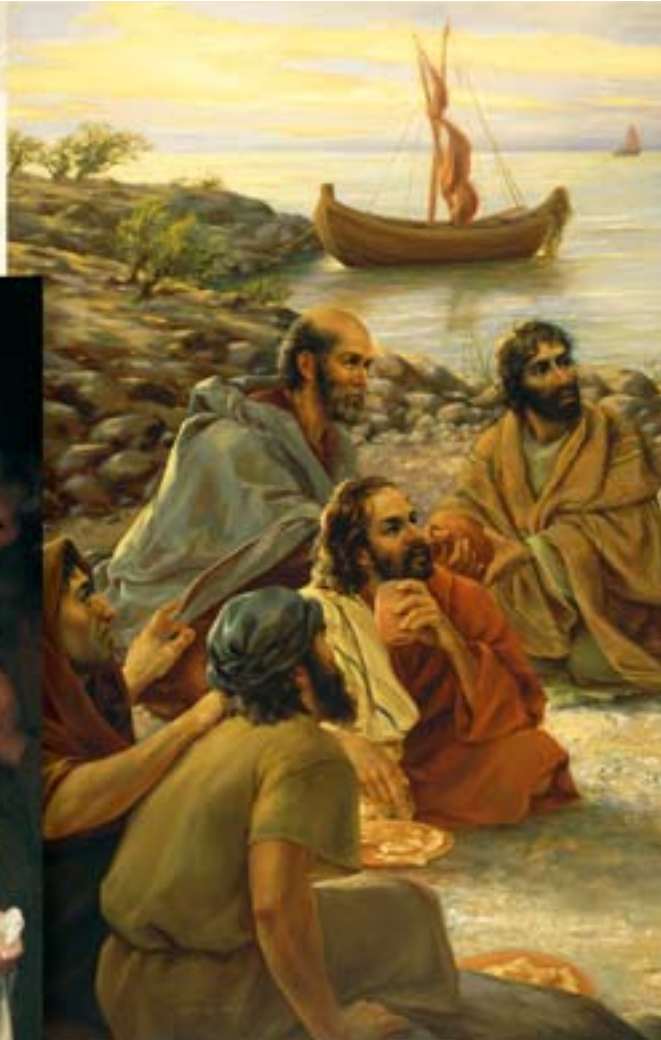


上—「疑うトマス」カール・ヘンリック・ブロック画

キリストはトマスに言われた。「あなたの指をここに
つけて、わたしの手を見なさい。……信じない者に
ならないで、信じる者になりなさい。」(ヨハネ20:27)

右—「復活しガリラヤを訪れられた
キリスト」ゲーリー・スミス画

「イエスは〔十一人の弟子たち〕に近
づいてきて言われた、……
『それゆえに、あなたがたは行って、
すべての国民を〔教えよ。〕』」(マタイ
28:18-20)



上—「わたしの羊を飼いなさい」カミーユ・コロー画

「『ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか。』彼はイエス
に言った、『主よ、そうです。わたしがあなたを愛すること
は、あなたをご存じです。』イエスは彼に言われた、『わた
しの羊を飼いなさい。』」(ヨハネ21:16)





©1993 IRI

下—「エマオに向かわれるキリスト」グレッグ・オルセン画

「そこで〔彼らは〕、しいて引き止めて言った、『わたしたちと一緒に泊まり下さい。もう夕暮ゆふぐれになっており、日はや傾かたむいています。』イエスは、彼らと共に泊まるために、家にはいられた。』(ルカ24:29)



©1999 聖書文化センター

右—「イエスの昇天」ハリー・アンダーソン画

「〔イエスは彼らを〕祝福しておられるうちに、彼らを離れて、〔天にあげられた。〕(ルカ24:51)

© IRI

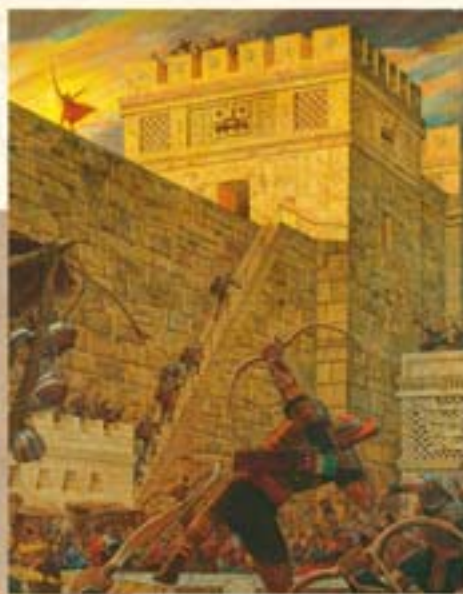


下—「西半球に御姿を現されたキリスト」アーノルド・フリーバーグ画

「そして、彼らはその意味が分かったので、再び天を見上げた。すると見よ、天から〔キリスト〕が降って来られるのが見えた。」(3ニーファイ 11：8)



©1961 IRI



©1961 IRI

上—「レマン人の預言者サムエル」アーノルド・フリーバーグ画

信じないニーファイ人は、「城壁の上にいる〔サムエル〕に石を投げつけた。また、城壁の上にいる彼に多くの者が矢を射かけた。」(ヒラマン 16：2)



©2003 IRI

右—「バウンティフルの地におけるキリスト」サイモン・デュイ画

「そこで群衆は進み出て、……また主の両手……の釘の跡くさに触れた。……〔そして〕この御方が、……〔キリスト〕であられることを、……証した。」(3ニーファイ 11：15)



左—「記録を持って来なさい」 ロバート・T・バレット画

「はい、主よ、〔レマン人〕サムエルはあなたの御言葉のとおりに預言し、それはすべて成就しました。」
するとイエスは彼らに、「〔この〕ことを書き記していないのはどうしてか?」と言われた。(3ニーファイ 23 : 10)

下—「キリストとモルモン書の子供たち」 デル・パーソン画

「〔キリストは〕涙を流された。群衆はそのことを証した。また、イエスは幼い子供たちを一人一人抱いて祝福〔された〕。(3ニーファイ 17 : 21)

© 1996 JRI



© 1995 JRI

© JRI



左—「ニーファイ人とともに祈られるキリスト」 テン・ヘニンジャー画

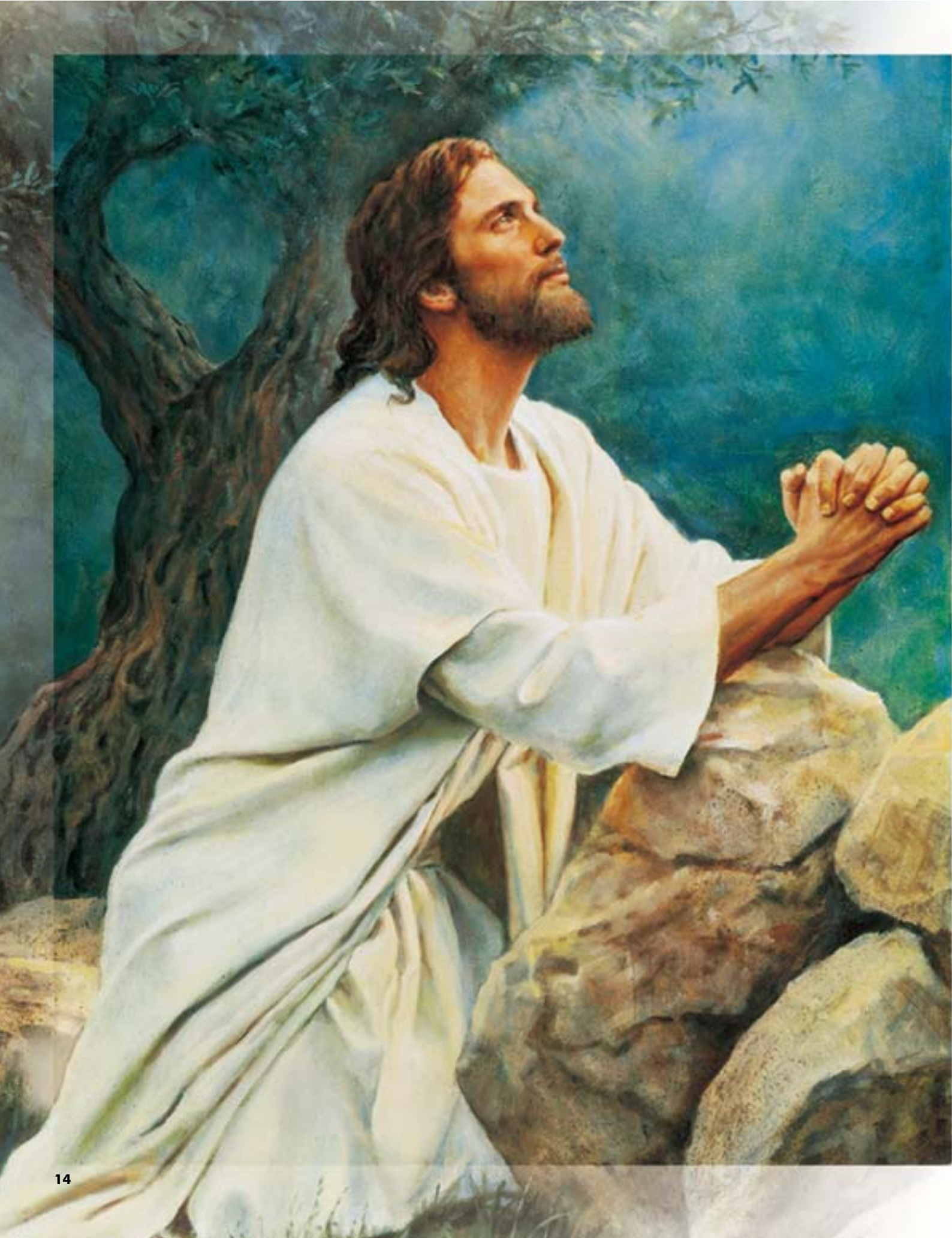
「またわたしたちは、〔キリスト〕がわたしたちのために御父に祈ってくださるのを聞いたが、そのときにわたしたちの心に満ちた喜びは、だれも想像することができない。(3ニーファイ 17 : 17)

下—「アメリカを訪られたイエス・キリスト」 ジョン・スコット画

「そして、〔ニーファイ人〕はイエスの足もとに伏して、イエスを拝した。(3ニーファイ 11 : 17)

© JRI





あがな

贖いはあなたにとって どんな意味がありますか

七十人

セシル・O・サミュエルソン・ジュニア長老

預言者ジョセフ・スミスはこのように教えています。「わたしたちの宗教の基本原則は、使徒と預言者たちがイエス・キリストについて立てた証^{あかし}です。すなわち主が亡くなり、葬られ、3日目に再びよみがえって、天に昇られたことです。わたしたちの宗教に関するほかのすべての事柄は、それに付随するにすぎません。」¹

この基本原則はイエス・キリストの贖いに基づいています。「贖い」に当たる英語の *Atonement* という言葉には、引き離されていた人々を一つに (at one) する、また人と神を一致させるという意味があります。人を神から引き離す原因は罪であり、それゆえに、贖いの目的は罪の結果である引き離された状態を修正する、または乗り越えることです。² 明らかな罪以外にも、多くの理由で神から離れてしまう可能性もあるでしょう。

天の御父と救い主から離れてしまう危険性は大きく、常にわたしたちの身の回りにあります。喜ばしいことに、贖いはこのようなすべての状況に当てはまります。そういうわけで、ニーファイの弟ヤコブは贖いを「無限」と言い表しました(2ニーファイ9:7)。限界または外からの制約がないという意味です。それゆえ、贖いは非常に驚くべきもの、かつ必要なものです。ですから、わたしたちがこのたぐいまれな贈り物に感謝するだけでなく、明確に理解する必要

があるのは当然のことです。

イエス・キリストはこの偉大な贖いの業を成し遂げることができる唯一の御方でした。唯一完全な御方であり、天の御父である神の独り子であられたからです。主は世界が創造される前に御父からこのきわめて重要な業を行う任務を受けられました。主はこの世で罪のない完全な生活を送り、血を流し、ゲツセマネと十字架上で苦しみ、自ら命をささげられ、その肉体は墓から復活されました。そのおかげで、世代と時代を超えてすべての人にとって完全な贖いが可能になったのです。

贖いにより、すべての人にとって復活が現実となります。しかし、わたしたち個人の背きや罪については、贖いの条件として主イエス・キリストを信じる信仰、悔い改め、律法と福音の儀式に対する従順が求められます。

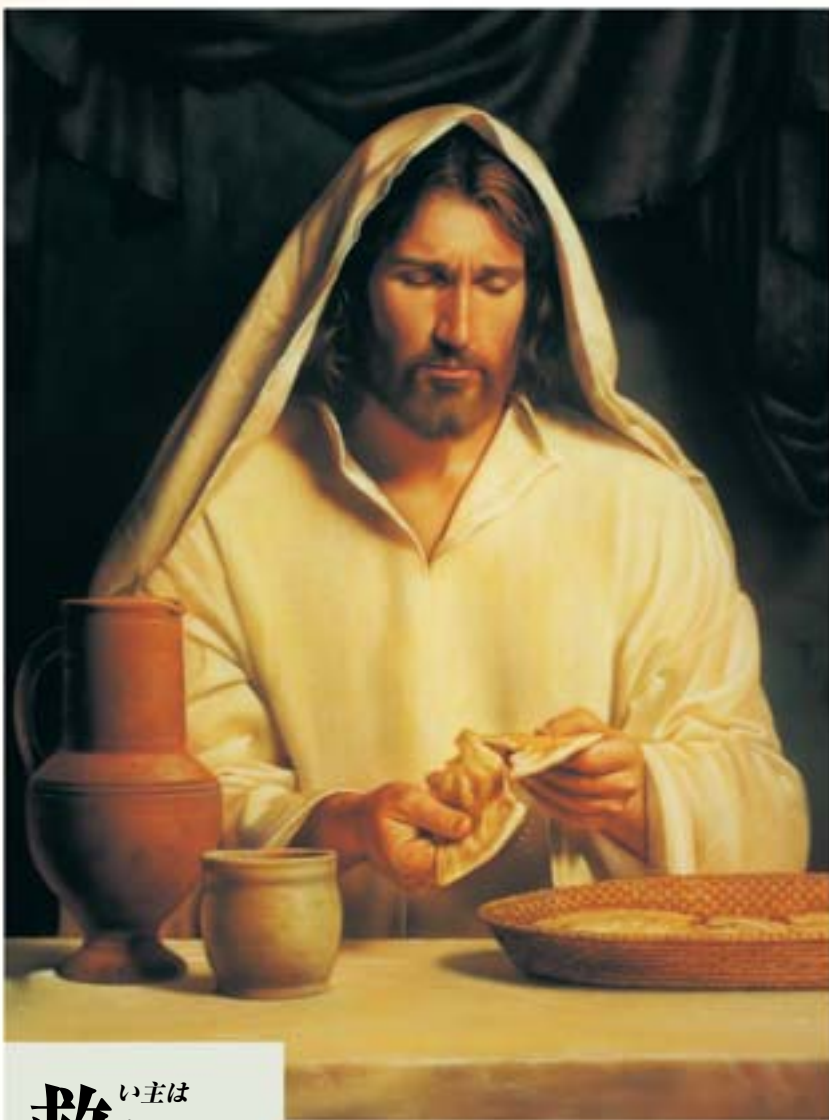
不死不滅と永遠の命

わたしたちの集会や書物で最も引用される聖句は恐らく、モーセ書にある明瞭簡潔^{めいりょうかんせつ}に記された次のすばらしい聖句ではないでしょうか。「見よ、人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。」(モーセ1:39)

復活により、わたしたちは皆、不死不滅になります。この贖いのおかげで人は、主の名を受



あがな
贖いはきわめて
個人的なものであり、
各個人の状態や
状況に応じて
それぞれに合うように
巧みに仕立てられて
います。



救い主は 人が 自分のことを

わきまえる以上に
わたしたちのことを
よく御存じです。
主が聖餐を
定めてくださったことに
感謝しましょう。
そのおかげで
神聖なしるしに
あずかることにより、
常に聖約を
新たにできるように
なりました。

けるほど深くイエス・キリストを信じ、悔い改めて主の福音に従って生活するならば、また、主と御父と交わした聖約を守り、神聖な場所で神聖な方法によって行われる救いの儀式に携わるならば、永遠の命を受け、その喜びを享受するでしょう。

イエス・キリストに対する強い信仰を表現しながらも、復活について非常に心配している人にはいまだかつて出会った記憶がありません。そうです、わたしたちは皆、たとえ細かいことに疑問を持ったとしても、基本的な約束はすべての人に与えられた、確かなものであると理解しています。

永遠の命は条件付きのもので、努力と従順さが求められるゆえに、ほとんどの人は時々、恐らく頻繁に、あるいは絶えず、生きるべき道に沿って生きるという問題にもがき苦しみます。

十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老はこう問いかけました。「わたしたちは確固とした決意と意志と規律により、自分の力だけで、良い人生をさらに良い人生に変え、聖徒にならなければならないと、誤って信じてはいないでしょうか。」³

もし救いが自分の努力だけにかかっているとしたら、わたしたちは大変な窮地に立たされます。なぜならわたしたちは皆、不完全で、すべての戒めをいつも完璧に守ることは不可能だからです。では、どのようにして必要な助けを得るのでしょうか。ニーファイは次のように証して、神の恵みとわたしたちの行いの関係を明らかにしました。「わたしたちが最善を尽くした後、神の恵みによって救われることを知っているからである。」(2ニーファイ 25:23)

『聖書辞典』(Bible Dictionary)によると、「恵み」とは人に力と助けを与える神の手段または方法であり、イエス・キリストの贖いによって享受できるようになった主の憐れみと愛を通して与えられます。⁴つまりキリストの恵みによって、わたしたちは復活するのです。そしてキリストの恵みと愛と贖いによって、わたしたちは、自分の力と才能だけではどういできないような良い働きを成し遂げ、必要な進歩を遂げることができるのです。

贖いがもたらす幸福

ニーファイには称賛すべき特質がたくさんありますが、わたしにとってその一つは彼の心構えです。ニーファイの人生は楽ではありませんでした。今日のわたしたちの多くが当然と考えている快適な生活と比べると、特にそう言えます。ニーファイと家族は約束の地に着くまで何年もの間、荒れ野で生活しました。飢え、渇き、危険に苦しみました。レーマンとレムエルが家族の問題を悪化させたため、ニーファイが対処しなければならませんでした。ついには、自分に従う人たちとともに、レーマンやレムエルに味方する人々と別れなくてはならなくなりました。

こうしたあらゆる不自由と困難を目の前にし

ながら、ニーファイは次のように言うことができました。「そして、わたしたちは幸福に暮らした。」(2ニーファイ5：27)

人生には困難や試練、落胆が付き物ですが、ニーファイは幸福な生活を送るための規範を理解していました。自分と民のために用意された神の計画の全体像を視野に入れることができたのです。そのため、たとえ不満を感じたとしても、人生は不公平であるという解釈が正しかったとしても、落胆せずに済んだのです。確かに人生は公平ではありませんが、それでもニーファイとその民は幸福でした。贖いがなされることを理解しており、自分たちもその祝福にあずかれると確信していたからです。

ニーファイは自分に対して重要な問いかけをしました。わたしたちも、キリストの贖いが自分の人生でどのような位置を占めているのかを考えると、同じ問いかけをするでしょう。

「おお、わたしがそれほど偉大なことを見たのであれば、そして主が、人の子らに対して御自身を低くして、それほど深い憐れみをもって人々を訪れてこられたとするならば、たとえわたしが苦難に遭ったからといって、どうしてわたしの心が涙し、わたしの霊が悲しみの谷にとどまり、わたしの肉体がやせ衰え、わたしの力が弱くなってよいだろうか。

またわたしの肉のことで、どうして罪に負けてよいだろうか。まことに、どうして誘惑に負けて、悪しき者がわたしの心に入って、わたしの平安を破り、わたしの霊を苦しめるのを許してよいだろうか。わたしが敵のことで怒りを抱くのはなぜなのか。」(2ニーファイ4：26 - 27)

そのように嘆いた後で、それらの問題にどう対処すればよいか知っていたニーファイは、自身の問いにこう答えています。「目覚めよ、わたしの霊よ。もはや罪の中でしおれるな。喜べ、おお、わたしの心よ。もうわたしの敵に場所を与えてはならない。……おお、主よ、わたしはあなたを頼ってまいりました。これからもとこしえに、あなたを頼ってまいります。」(2ニーファイ4：28, 34)

これは、ニーファイにはもはや問題がなくなったという意味でしょうか。人生に起こることをすべて理解したという意味でしょうか。その数年前、ニーファイは将来現実となるキリストの贖いについて天使から重要な質問を受けました。そのときのニーファイの答えを思い出してください。「わたしは、神がその子供たちを愛しておられることは知っていますが、すべてのことの意味を知っているわけではありません。」(1ニーファイ11：17)

わたしたちもすべてのことの意味を知ることができません

し、これからも知ることはないでしょう。しかし主がその子供たちを愛しておられることと、生活の中で困難に遭ってもキリストの恵みと贖いを完全に受けられるということを知ることができずし、知らなければなりません。また、同様に、サタンが心に入り込むのを許すことの愚かさや危険性についてもよく知っていますし、覚えておかなければなりません。

悪とサタンを心と生活から締め出さなければならないことをよく理解し、そうすると決意していても、わたしたちは「生まれながらの人」であることがあまりに多いので(モーサヤ3：19参照)、失敗してしまいます。したがって、悔い改めの原則に感謝し、実践しなければなりません。わたしたちはしばしば悔い改めを一つの出来事のように話します。確かにそのような場合もありますが、わたしたちの多くにとって、悔い改めとは、たゆまずに生涯にわたって行うものなのです。

もちろん、良いことをしないのも、悪いことをするのも、両方罪であり、いずれもすぐに悔い改めを始めることができます。不正や過ちの中には、今すぐ捨て去り、決して繰り返さないことが可能なものもあります。例えば、什分の一をこれまで完全に納めていなかったとしても、これから残りの生涯を通じて完全に納めることができます。しかし、例えば、霊性、慈愛、気遣い、家族への思いやり、隣人への心配り、聖文の理解、神殿参入、個人の祈りの質など、人生のほかの側面では絶えず成長し、注意し続けなければなりません。

救い主は人が自分のことをわきまえる以上にわたしたちのことをよく御存じです。主が聖餐を定めてくださったことに感謝しましょう。そのおかげでわたしたちは御子の名を受け、いつも御子を覚え、御子の戒めを守ると決意して、神聖なしるしにあずかることにより、常に聖約を新たにできるようになりました。「幸福に暮らす」ための規範に従うにつれて、わたしたちの悔い改めと行いはより質の高いものとなり、贖いに対する理解と感謝の気持ちは深まっていきます。

悔い改めと従順

1830年に教会が組織される数週間前、預言者ジョセフ・ミスは驚くべき啓示を受けました。救い主御自身が話し、教えを授けられたその啓示によって、贖いに対するわたしたちの理解は増加されています。主は御自身を「世の贖い主」と呼び(教義と聖約19：1)、御自身が御父の御心みこころに従っていることを認めてこう言われました。「わたしはあなたに命じる。悔い改めなさい。また、あなたが……受けた戒めを守りなさい。」(教義と聖約19：13)



も しも わたしたちが 救い主に

尊敬の念と愛を
お返ししたい
と望むのなら、
主が
わたしたちのために
してくださったことを
決して
忘れてはなりません。
正義の要求のみに
従うなら、
わたしたちは
主と同じ苦しみを
受けるはずだった
のです。

悔い改めと従順というこの分かりやすい規範は、確かに「幸福に暮らす」ための基礎です。わたしたちはすべきだと分かっているが、なぜそうすべきか忘れることがあります。主はその理由を思い起こさせるために、この同じ啓示の中で以下のように語っておられます。

「見よ、神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が悔い改めるならば苦しみを受けることのないようにした。

しかし、もしも悔い改めなければ、彼らはわたしが苦しんだように必ず苦しむであろう。

その苦しみは、神であって、しかもすべての中で最も大なる者であるわたし自身が、苦痛のためにおののき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのものであった。そしてわたしは、その苦い杯さかずきを飲まずに身を引くことができればそうしたいと思った。

しかしながら、父に栄光があるように。わたしは杯を飲み、人の子らのためにわたしの備えを終えたのである。」(教義と聖約19:16)

何と驚くべき教えでしょうか。主が偉大な贖いの業を成し遂げられたときの苦しみの深さ

と激しさはだれにも想像できないとわたしは確信しています。当時のジョセフ・スミスも救い主の苦しみを完全に理解することはできなかったのではないかと思います。が、ジョセフは後に試練と苦しみを味わい、贖いに対する感謝と理解を深めました。リバティーの監獄で苦難の時を過ごしていたジョセフに、イエスは自ら導きと慰めをお授けになりました。ジョセフの思いを正すために語られた主の教えについて考えてみましょう。そのとき、主はただこう言われました。「人の子はこれらすべての下に身を落とした。あなたは人の子よりも大なる者であろうか。」(教義と聖約122:8)

ジョセフに対するこの問いは、独自の苦難や試練を抱えるわたしたち一人一人に対する問いでもあります。この問いの正しい答えに疑いを持つ人はいないはずで

イエスがそのような経験をなさったのは、逃れられなかったからでなく、わたしたちへの愛のゆえであるということは、心に深く訴えかけます。また、御父に対するイエスの深く誠実な愛と尊敬の念は、ただ想像することしかできま

せん。もしもわたしたちが救い主に尊敬の念と愛をお返ししたいと望むのなら、主がわたしたちのためにしてくださったことを決して忘れてはなりません。正義の要求のみに従うなら、わたしたちは主と同じ苦しみを受けるはずだったのです。

主は鞭打たれ、着物をはぎ取られ、あざけられ、釘を打たれ、想像を絶する重圧と苦しみを受けられました。あまりに激しく耐え難い苦痛であり、主がその力をもって、すべてに打ち勝ち、耐え抜くと主が決意されて臨まれるのでなければ、だれにも耐えることなどできなかつたでしょう。

贖いが及ぶ広さ

贖いが及ぶ広さを考えるとき、また贖い主がわたしたちの罪のために自ら進んで苦しまれたということについて考えるとき、贖いの犠牲の効力が及ぶ範囲が非常に大きいことに気づき、感謝の念に満たされます。贖いが現実に行われる1世紀ほど前に、ギデオンに住んでいた忠実な民に語ったアルマの言葉を深く考えてみてください。

「そして〔イエス〕は、あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられる。これは、〔イエス〕は御自分の民の苦痛と病を身に受けられるという御言葉が成就するためである。

また〔イエス〕は、御自分の民を束縛している死の縄目を解くために、御自身に死を受けられる。また〔イエス〕は、肉において御自分の心が憐れみで満たされるように、また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように、彼らの弱さを御自分に受けられる。

さて、御霊はすべてのことを御存じである。にもかかわらず、神の御子は御自分の民の罪を負い、御自分の解放の力によって彼らの背きを取り消すために、肉において苦しみを受けられる。さて見よ、これがわたしの内にある証である。」(アルマ7：11－13)

わたしたちの苦痛、苦難、試練、病、罪、失意、背きを完全にまた包括的に救済する方法について考えてみてください。イエスの贖いに代わるものを想像できるでしょうか。さらに比類ない復活について考えるなら、わたしたちは「主イエスの愛にただ驚く」と歌う理由が分かるようになるはずです。⁵

皆さんやわたしにとって贖いはどんな意味があるでしょうか。贖いはすべてを意味します。ヤコブが説明したようにわたしたちは「神の独り子キリストの贖罪を通じて〔御父〕と和解」することができます(モルモン書ヤコブ4：11)。すなわち、悔い改めて、主と完全に一致し、主を完全に受け入れることができます。そして「キリストの憐れみを否定し、キリストの贖

罪とキリストの贖いの力を軽んじる」という過ちや誤解を避けることができるのです(モロナイ8：20)。

ヒラマンの勧告に耳を傾けることにより、救い主の贖いを否定したり軽んじたりしないようにしましょう。主が地上に来られる直前に語られたこの言葉は、今日でも当てはまります。「おお、覚えておきなさい。わが子らよ、……まことに、将来来られるイエス・キリストの贖いの血によってのみ人は救われるのであり、ほかには一切道も手段もないことを覚えておきなさい。まことに、イエス・キリストが世を贖うために来られることを覚えておきなさい。」(ヒラマン5：9)

主の贖いは世界中に及び、世の初めから終わりまですべての人に影響します。しかし、贖いは広大な範囲に及び、完全である一方、きわめて個人的なものでもあり、各個人の状況に応じてそれぞれに合うように巧みに仕立てられているという点を忘れないようにしましょう。天の御父と御子は人が自分のことをわきまえる以上にわたしたちのことをよく御存じです。そしてわたしたちの必要や困難、可能性に合わせて、贖いを用意してくださいました。

御子を遣わしてくださった神に感謝しましょう。そして、わたしたちを贖ってくださった救い主に感謝しましょう。贖いは真実であり、効力があり、わたしたちが必要とする場所、行きたい場所に導いてくれます。■

2006年5月5日、ブリガム・ヤング大学女性大会の説教より

注

1. ジョセフ・スミス『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』(メルキゼデク神権および扶助協会教科課程)、49－50
2. Bible Dictionary, "Atonement," 617. 『聖句ガイド』「贖い;贖う」8も参照
3. デビッド・A・ベドナー, "In the Strength of the Lord," *Brigham Young University 2001－2002 Speeches* (2002年) 123に収録
4. Bible Dictionary, "Grace," 697参照. 『聖句ガイド』「恵み」254も参照
5. 「主イエスの愛に」『賛美歌』109番

良い羊飼いの声

シェリー・カートライト・ジッパリアン

70年の人生のほとんどを、モンタナ州にある大牧場で働いてきたわたしは、ヨハネによる福音書第10章1節から18節にある良い羊飼いのたとえが心に刻み込まれています。このたとえは、これから紹介する経験談を通して、わたしにとって特に意義深いものとなりました。

聖書の時代、羊飼いは、寄り集まっている多くの羊の中から、声で自分の羊を呼び集め、羊が夜を過ごす小屋に連れて行きました(3-4節参照)。わたしも同じように、羊を別の場所に移すときはいつでも、ただ声を出して羊を呼びました。すると羊はついて来るのです。

何年も前のことです。近所にアリスという96歳の女性が住んでいました。彼女は普段とても元気だったのですが、その年の羊の出産時期に病気になってしまいました。わたしは彼女のために、夜の間に、羊の出産の世話を買って出ました。「当番」の最初の夜、わたしは、100頭ほどの雌の羊が寝入っている出産用の羊小屋に足を踏み入れました。ところが、わたしが近づくとも羊は、見知らぬ他人が入って来たときとすぐに分かりました。羊は恐怖におびえ、安全を求めて小屋の隅へ急いで逃げて行くと、身を寄せ合いました(5節参照)。

そんなことが幾晩か続きました。音を立てないように入ろうとどれほど努力しても、羊は恐怖に駆られて逃げてしまいました。わたしは番をしながら、生まれたばかりの子羊たちと雌の羊たちに優しい声で話しかけました。5日目には、すぐそばで作業しても、もう逃げ回ることはなくなりました。ようやくわたしの声分かり、わたしを信頼してくれるようになったのです。

その後、わたしはアリスの代わりに10数匹の子羊の授乳をすることを申し出ました。(母羊が死んだり、十分な乳を出さなかつたりしていたためです。)アリスの声をまね、「メーメーたち、こっちにおいで」と言いながら子羊を呼びました。おなかをすかせた子羊は、アリスが呼ぶときと同じように、わたしにも殺到して来るものと思いました。ところが1匹たりとも、顔すら上げません。すると、台所のドアの所から出て来たアリスが子羊を呼びました。アリスの声を聞いた子羊は、我先にとアリスに向かって行き、ミルクを欲しがって声を上げました。

わたしたちは好奇心をそそられてある実験をしました。アリス

がわたしの羊のいる囲いの中に立ち、わたしの声をまねて「メーメーちゃんたち、こっちだよ」と呼んでみたのです。まったく反応がありませんでした。ところが、わたしがまったく同じ言葉で呼んでみると、わたしはあっという間に自分の羊に囲まれました。二人ともまったく同じ言葉で羊に呼びかけたのですが、聞き覚えのない声は無視されてしまったのです。羊は忠実にも、本物の羊飼いの声だけを聞き分けたのでした。

ヨハネによる福音書第10章では、「羊飼い」という言葉と「羊を飼う人」という言葉が使い分けられています。羊飼いは自分の羊を飼っており、羊の安全を守るために、愛をもって心を配ります。対照的に、羊を飼う人は単なる「雇人^{やといじん}」であって、「心にかけていない」のです(13節)。このたとえはまた、雇人は羊を捨てて逃げ去るが(12節参照)、羊飼いは羊のために進んで命を捨てる(11節参照)と教えています。これはまさしく、わたしたちの良い羊飼いの、すなわち人類のために愛をもって命をささげてくださいました救い主イエス・キリストについて言えることです(15、17-18節参照)。

この経験は、このたとえが伝える大切なメッセージが真実であると確信させてくれました。つまり、良い羊飼いを個人的に知り、喜んで主の声を聞き分けようと努めるなら、「雇人」に従う間違いを犯さずに済むということです。ほかの声に耳を貸さず、忠実に良い羊飼いの声に心を留めるなら、わたしたちは永遠に安全な場所に導かれるのです。■





わたしに学びなさい

イエス・キリストの福音を学ぶことは、何よりも偉大な教育です。
(マタイ11：29参照)

「わたしの両親は教会に出席していません。両親の支援がなくても信仰を強く保つにはどうしたらよいでしょうか。」

ほ とんどの人がたいてい親から指導を受けることを考えれば、あなたは難しい状況にいるといえます。それでも、信仰を強く保ち続けるためにあなたにできることがあります。それを実行することで、両親に模範を示すことができるでしょう。

日々の生活で靈感を受けるために、いつも祈り、聖文を研究しましょう。天の御父はあなたの祈りを聞き、こたえてくださいます。

ほかの親戚や教会員の模範に倣い、必要な助けを得るようにしてください。例えば、家庭にふさわしい神権者がいなければ、ホームティーチャー、ビショップ、支部会長などに神権の祝福を頼みましょう。

あなたが信仰の模範を示すことで、きょうだいや両親を強めることができます。きょうだいと一緒に家庭の夕べや家族の祈り、または家族の聖文研究をするのもいいでしょう。両親も参加したいと言ってくれるかもしれません。

最も大切なのは、引き続き両親を愛することです。裁かないでください。むしろ、優しくあり、忍耐をもって接してください。あなたが両親の愛と支えを必要としているのと同様に、両親もあなたの愛と支えが必要なのです。

両親のために祈りましょう



家族の祈りをするよう誘ってみましょう。教会の活動にも誘いましょう。家庭の夕べを計画してください。両親のために何度も祈り、模範となるよう努力しましょう。そうすれば、家族を強め、自分の証も強めることができます。気持ち
が楽になります。そして、教会に活発でい続けられるよう主から助けを得られるでしょう。信仰と献身的な心をもって行ってください。そうすれば、主はあなたの祈りにこたえてくださるでしょう。

メキシコ、ユカタン州、ソニア・B、20歳

あきらめないでください

わたしの父は教会員ではありません。母も姉や妹も活発に集っていません。わたしの信じていることを家族が大切に思ってくれないことに心が痛みます。それでも、セミナーや教会、ミューチャルに参加したり、祈ったり、聖文を読んだりすることで信仰が強まってきました。わたしからあなたへのいちばんのアドバイスは、あきらめないことです。

アメリカ合衆国、ネバダ州、アマンダ・B、16歳

教会に行き続ける方法

わたしの知っている女の子は、両親は教会に来ないのに、とても熱心に教会に来ています。もう若い女性メダルペンダントも受賞していて、ほかの少女たちにとって模範です。彼女は、若い女性の少女たちから助けを受けることや、欠かさずに教会に行くこと、そして天の御父と心からお話することが、教会に活発でいるためにとても大切だと言っています。

アメリカ合衆国、オクラホマ州、チェルシー・C、17歳

質問

「とても多くの方が慎みのない服装をしているときに、清い思いを保つにはどうしたらよいでしょうか。」

あなたの意見を聞かせてください。2009年5月15日必着で下記まで郵送か電子メールでお送りください。

あて先——

Liahona, Questions & Answers 5/09
50 E. North Temple St., Rm. 2420
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA

電子メールアドレス——

liahona@ldschurch.org

電子メールまたは手紙には、以下の情報と署名入りの許可文を必ず明記/同封してください。

氏名

生年月日

ワード(または支部)

ステーク(または地方部)

意見と写真の掲載を許可します。

署名

親の署名(18歳未満の場合)

安全な避け所



わたしにとって、証を強めるうえで祈りと聖文研究は欠かせません。スカウトや若い男性の活動に参加し、召しを果たすことにより、安全な避け所を見いだしています。預言者の勧告に従うこと、良い友達を選ぶことも助けになります。家族に心からの愛と関心、尊敬の気持ちを表し、いつも家族に模範を示すことを忘れないでください。あなたが自分のなすべきことを行えば、主も御自身のなすべきことを行ってください。

カリフォルニア州、サンフランシスコ伝道部、
ウィガム長老、21歳

友達の模範から勇気を得る

わたしの母は教会に熱心でなく、親戚にも会員はいません。わたしは指導者と友達を信頼するようにしています。いつもわたしを助けてくれる彼らは、わたしの人生でとても大切な存在です。わたしが今のような生き方をし、伝道に出る目標を持っているのも彼らのおかげです。わたしは彼らの模範を通して大いに勇気づけられています。あなたは、会員として成長できるよう助けてくれる人たちの友情に感謝し、もっと彼らと一緒にいる必要があります。そのような友達と一緒にいるなら、間違いなく、もっと多くのことを常に学べるでしょう。

アルゼンチン、フエノスアイレス、
イバーナ・S、20歳

両親に愛を示しましょう

両親と話すのをやめないでください。両親に助けを求めましょう。両親に愛と感謝を示し、自分にとって教会に行くことがどれほど大切なのかを伝

えてください。教会への送り迎えを指導者に頼んでみましょう。ビショップがあなたの両親と話してくれるかもしれません。天の御父に祈り、助けを求めてください。そして、教会に活発であることがあなたにとって大切だということを両親が少しでも理解してくれるように祈りましょう。また、モルモン書を毎日読んだり、戒めを守ったりすることでさらに力を得ましょう。

アメリカ合衆国、ミズーリ州、クレーグ・L、16歳

二つの方法で助けを得る

わたしは伝道を通して、あなたと同じような家庭をたくさん目にしてきましたが、こうした悩みを持つ青少年には勇気があります。彼らはどのようにしているのでしょうか。友達や指導者を通して教会の中で助けを得ています。また祈ること、日々聖文を読むこと、教会に出席することを通して、主から助けを受けています。これらのことを行うなら、きっとうまくいくでしょう。

タヒチ、バペーテ伝道部、ジョーンズ長老、21歳

皆さんは家族を強めることができます



『「若人の強さのために」』にはこうあります。『家族がいるというのは、とても大きな祝福です。……家族全員が同じ性格ではないかもしれませんが、天の御父の計画では一人一人皆大切です。』(10ページ)

理想的な家族でも、問題を抱えている家族でも、すべての家族を強める必要があります。皆さんはそれに貢献できます。事実、

家族の中で霊的に強いのは皆さんだけという場合もあります。福音の祝福を家族にもたらすうえで、主は皆さんを頼りにしておられます。

皆さん自身の生活を義にかなって整えることが大切です。そうすれば、家族がどのような状況にあっても、良い模範を示すことができます。」

中央若い女性会長会第一顧問 メアリー・N・クック
「家庭と家族を強める」『リアホナ』2007年11月号、11

ヤコブの手紙 1:5-6

使徒ヤコブは、神から知恵を受ける^{かぎ}鍵を教えてくださいました。

神に願い求める

この聖句を読んだジョセフ・スミスは聖なる森で祈り、そこで最初の示現を受けました(ジョセフ・スミス—歴史1:11-17参照)。あなたの家族またはあなた自身が知恵を求めて祈り、答えを受けた経験がありますか。その経験について日記に書きましょう。

惜しみなく

惜しみなく—進んで、寛容に、豊かに

とがめもせず

とがめる—批判する、叱責する、非難する。^{しっせき}つまり、神は、疑問に対する答えを求めて真心から祈る人に腹を立てることは決してなく、必ずこたえてくださるということです。



すべての人に与える

「神のもとへ行って啓示を受けることは、神の子供たちの特権です。……神は人を偏り見る御方ではありません。わたしたちは皆同じ特権を持っています。」

預言者ジョセフ・スミス
『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』
(メルキゼデク神権および扶助協会のための学習課程),
132

あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず、惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。ただ、疑わないで、信仰をもって、願い求めるさい。疑う人は、風の吹くままに揺れ動く海の波に似ている。

日本キリスト教団協会口語訳聖書から引用



信仰をもって求める

「預言者〔ジョセフ・スミス〕は、この聖句を読んだ後で、主の約束を試すために主にお尋ねするか、そのまま永遠の暗黒の中にとどまる道を選ぶか、どちらかにしなければならぬと確信したと言っています。……彼は聖文を読んで理解し、永遠の父なる神を信頼していました。そして、神は自分が熱心に求めている光を与えてくださるとの確信をもって、ひざまずき、祈ったのです。預言者ジョセフ・スミスは模範によってわたしたちに信仰の原則を教えてくださいました。」

トーマス・S・モンソン大管長
『預言者ジョセフ・スミス—模範による教師』
『聖徒の道』1994年6月号, 5

与えられるであろう

天の御父はあなたの祈りを聞き、こたえてくださいます。主の答えは主の時間と様々な方法によって与えられます。主が用いられる方法には、あなたの生活の状況、人からの親切、あるいは聖霊の静かな細い声などがあります。御霊を通して導きを受けるために備える方法を幾つか紹介します。(「啓示」『真理を守る』2004年, 70より抜粋)

- 導きを求めて祈る
- 敬虔^{けいけん}になる
- 謙遜^{けんそん}になる
- 戒めを守る
- ふさわしい状態で^{せいさん}聖餐を受ける
- 聖文を毎日研究する
- 深く考える時間を取る
- 特定の問題に対する導きを求めるときには、心の中でその問題についてよく思い計る^{みとこら}
- 根気よく神の御心を求める

聖文を熱心に調べる



訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や言葉を教えてください。その教義について証してください。また、感じたことや学んだことを分かち合うように勤めてください。

なぜ聖文を調べるのでしょうか。

ハワード・W・ハンター大管長 (1907-1995年)—「神の啓示を生活の基準とし、あらゆる決定と行動の物差しとするように皆さんに勧めます。そして、悩み事や困難があるときには聖文や預言者の言葉に目を向けながら立ち向かってください。」(“Fear Not, Little Flock,” *Devotional and Fireside Speeches*, 1989年, 112)

エズラ・タフト・ベンソン大管長 (1899-1994年)—「義にかなった成功、まやかしを避け誘惑に打ち勝つ力、日々の生活における導き、心の癒し——これらは主の御言葉を求める者に与えられた約束のほんの一部にしかすぎません。……聖典の中にか見いだせない祝福があります。主の御言葉を求め、それをしっかりとつかみ続けることで見いだせる祝福があるのです。……

……ぜひとも熱心に聖文を勉強してください。毎日聖文に親しみ、御霊の力を受けて召しを果たすようにしてください。家族の中で聖文を読み、子供たちに、聖文を愛し大切にしよう教えてください。」(「み言葉の力」『聖徒の道』1986年7月号, 82参照)

スペンサー・W・キンボール大管長 (1895-1985年)—「聖文の真理に詳しくなればなるほど、自分を愛するように隣人を愛しなさいという第二の偉大な戒めをしっかりと守ることができるようになるでしょう。聖文の学者になりましょう。ほかの人をさげすむためではなく、彼らを高めるためにです。結局の



ところ、人を養い、教える機会が多い女性や母親以上に、(必要とするときに頼ることのできる)福音の真理を『蓄え』ておく必要のある人がいるのでしょうか。」(『歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』221-222)

どうすれば聖文を貴んで蓄えることができるのでしょうか。

2ニーファイ4：15—「わたしは聖文に喜びを感じるからである。わたしは聖文について心に深く考え、わたしの子孫の知識となり利益となるようにこれを書き記す。」

中央扶助協会会長 ジュリー・B・ベック—「聖文研究を始める良い方法の一つは、自分に『当てはめて』みることです(1ニーファイ19：23参照)。中には、『聖句ガイド』からさらに知識を深める必要のある項目を選んで研究する人もいます。また、聖典の始めから読み、読みながらある特定の教えを探す人もいます。……

どのような方法で聖文を学び始めようと、重要な知識の扉を開く鍵は学び続けることにあります。わたしは、聖文に記された豊かな真理の宝を発見することに飽きることがありません。それは、聖文が『可能なかぎりはっきりした言葉で』教えてくれるからです(2ニーファイ32：7)。聖文はキリストについて証し(ヨハネ5：39参照)、わたしたちがなすべきことをすべて告げ(2ニーファイ32：3参照)、『救に至る知恵を……[わたしたちに]与え』てくれます(2テモテ3：15)。

わたしは、聖文研究とそのときにささげる祈りを通して知識を得ました。その知識は平安をもたらし、永遠に価値のある事柄に勢力を向けさせてくれます。毎日の聖文研究を始めたおかげで、天の御父とその御子イエス・キリストについて、そして御二方のようにするには何をしなければならぬかを学びました。」(「わたしは聖文に喜びを感じる」『リアホナ』2004年5月号, 108)『リアホナ』

トーマス・S・モンソン大管長—「皆さんの書棚には聖典が並べられています。心の栄養を摂取し、生活の導きを得るために、これらの聖典を必ず活用してください。」(「扶助協会の偉大な力」『聖徒の道』1998年1月号, 112参照) ■

学問

と末日聖徒



知識を身に付けることは
一生続けるべき神聖な事柄です。
学ぶことは天の御父が喜ばれることであり、
主の僕であるわたしたちが
熱心に携わるべきことです。

十二使徒定員会

ダリン・H・オークス長老
およびクリステン・M・オークス

ブリガム・ヤング大学のある学長就任式で、J・ルーベン・クラーク管長はこう語りました。「学問の門をたたく人は、燃えるしばに近づいたときのモーセのような姿勢で臨む必要があります。学問は聖なる領域であり、神聖な事柄を習得できます。ですから、いかなる学問分野においても、敬虔な態度だけでなく、礼拝の精神をもって真理を求めなければなりません。」¹

わたしたちは末日聖徒として教育の大切さを信じており、学問を修める方法と理由に関して一つの見解を持っています。教会員では御霊によって学問を修めるべきであり、修得した知識を人類の益のために使う責任を負っていると教えられています。

真理の探究

「〔わたしたちの〕……宗教は、……熱心に知識を求めるように〔わたしたち〕を促すものです」とブリガム・ヤング大管長(1801 - 1877年)は教えました。「末日聖徒以上に、真理を見聞きし、学び、理解したいと強く願っている人々はいません。」²

わたしたちは生活のあらゆる面において、そして状況が許すかぎり深く、真理を探究すべきです。学識ある末日聖徒は今日の宗教、物理、社会、政治にかかわる大切な問題を理解しようと努めるべきです。天の律法や地上の事柄について知れば知るほど、周りの人にいっそう良い影響を及ぼすことができ、人を惑わし滅ぼそうとする低俗で邪悪な影響力から守られます。

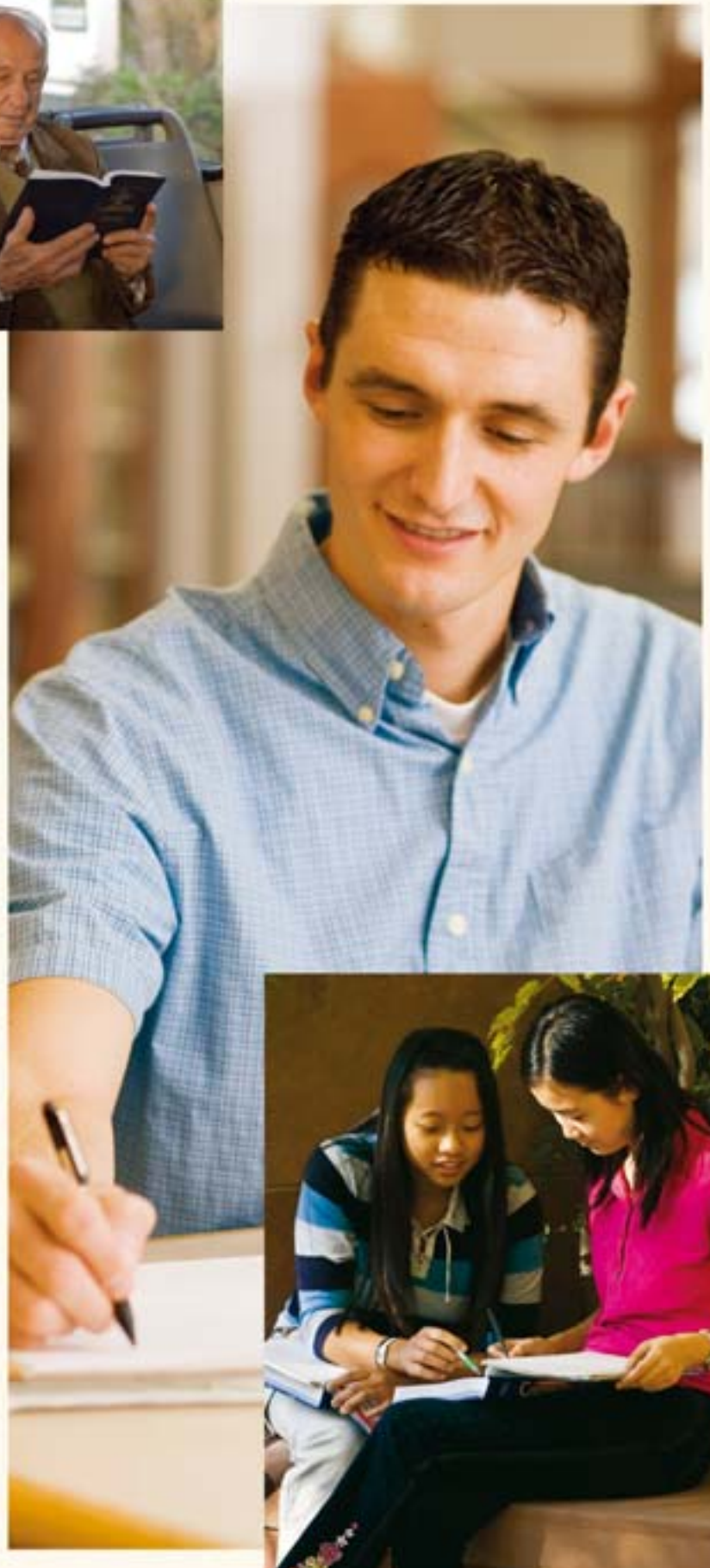


真理を求めるとき、わたしたちは愛ある天の御父の助けを求めなければなりません。主の御霊は、学ぼうと努めるわたしたちを導き、強め、真理を身に付ける力を増し加えてくださいます。御霊によって学ぶことは教室や学校の試験勉強に限りません。生活の中で行うあらゆることに関して、そして家庭、職場、教会など、わたしたちが活動するあらゆる場所でできることなのです。

流行や今日の諸問題に^{ほんろう}翻弄される世にあって、御霊の導きを求め、従おうとするとき、現代の科学技術が次々に繰り出す誤った情報や取るに足りない情報の波に押しつぶされそうになります。ある専門家が語るどころの「パンケーキ人間」すなわち、「ボタン一つでアクセスできる膨大な情報ネットワークにつながることで薄っぺらな人間」³になる危険性があります。

さらに、人気トークショーの司会者、テレビに出演する心理学者、ファッション雑誌、メディアに登場するコメンテーターなど、そのゆがんだ価値観や、正しいとは言い難い行為は、わたしたちの意見や行動に影響を及ぼしかねません。例えば、スペンサー・W・キンボール大管長(1895 - 1985年)は「世の中において、〔女性と男性〕の役割がこれほど混乱している時代はかつてありませんでした」⁴と語りました。

このような状況にあって、混乱し、落胆し、自信を失ってくると、信仰が揺らぐようになり、わたしたちは救い主からも、地上に主の王国を



築く業からも、顔をそむけるようになるかもしれません。流行や世の動向に合わせて決断を下し始めるなら、「だまし惑わす策略により、人々の悪巧みによって起る様々な教の風に吹きまわされたり、もてあそばれたりする」ようになるでしょう(エペソ4:14)。

末日聖徒イエス・キリスト教会は世論に左右されることなく、原則を教えます。世論と原則の違いは甚大です。流行、ファッション、世の考えは一時的で、目まぐるしく移り変わるものです。原則は守りと導き、そして真理の錨いかりとなります。何を理想とし何を目指すかを、主イエス・キリストを信じる信仰や預言者への従順といった教義と原則にしっかりと据えるなら、人生の大切な決定を下す際に完全に信頼できる、不変の道しるべを手にすることができるでしょう。⁵

恐れることはありません。大管長会第一顧問であるヘンリー・B・アイリング管長はこのように教えています。「皆さんがなすべき事柄も知るべき事柄も主は御存じです。主は思いやりにあふれた御方であり、すべてを御存じです。ですからわたしたちは、いつか行う奉仕の備えとして学ぶ機会を主が下さっている

と確信することができます。皆さんはおそらくそのような機会をはっきりとは認識できないでしょう。……しかし、霊に関する事柄を第一にして生活するならば、祝福されて、あることを学ぶよう導かれていると感じるようになり、もっと努力しようという意欲がわいてくるようになります。」⁶

個人のふさわしさ

学ぶ努力をするとともに、聖霊の導きを受けるためにふさわしくあることが必要です。人や自分に対して否定的な感情

を抱かないようにしてください。それと同時に、性的不道徳、ポルノグラフィ、常習性のあるものも避けてください。罪は主の御霊を退けます。罪を犯すと、御霊の特別な光が消え、学びのともしびは弱まります。

現代の啓示によれば、神の栄光にひたすら目を向ける——これには個人のふさわしさを保つことも含まれます——ならば「全身は光に満たされ、[わたしたち]の中に暗さがな[く、]……光に満たされるその体はすべてのことを悟る」と約束されています(教義と聖約88:67)。

この永遠の原則は、だれもが個人的な経験から確認できます。怒ったり、けんか腰になったり、口論したときのことを思い出してください。そのときに効果的に学びましたか。そのときに少しでも啓発されましたか。

罪と怒りは知性を暗くします。神の栄光である英知(教義と聖約93:36参照)の特徴は光と真理であるのに、罪と怒りはその反対の状態を作り出します。悔い改めにはイエス・キリストの贖いの犠牲を通して罪を洗い清める力があります。それゆえに、聖霊が持つておられる「教える力」によって光と真理を得ようとするなら、だれもが「悔い改め」という学びに欠かせないステップを踏む必要があるのです。

わたしたちは不完全ですが、御霊を伴侶はんりよとするためにさらにふさわしくなる努力をすることができます。御霊はわたしたちの識別の力を強めてくださいます。また、さらに真理を擁護し、社会的な圧力に耐え、価値ある貢献ができるように備えさせてくださいます。

教育

どんな教育を受けるかを決めるとき、それが将来自活し、家族を養う備えであることを自覚するべきです。就職に有利な技能を身に付ける必要があります。安定した、満ち足りた生活を送るために、教育は欠かせません。

天の御父は、わたしたちが自分の適性や能力をよく調べ、どのような教育を受けるか決定する際に、選択の自由を用い、靈感を受けるよう望んでおられます。これは、高校を卒業したばかり、あるいは伝道を終えたばかりで、進学や就職について決断を迫られている若人にとって特に重要です。男性と女性では選択に当たって直面する事柄が大きく違う場合があるので、わたしたち夫婦の対照的な経験を紹介しましょう。





恐らく多くの末日聖徒もわたしたちと似たような経験をしているのではないかと思います。

オークス長老——多くの若い男性と同じように、将来家族を養う必要があることから、わたしは学校教育を受けるために、続けて、熱心に学んできました。大学卒業後は大学院に進学しました。学費はアルバイト料や教育ローンで支払いました。ローンはさらに高い教育を受けることで増える収入分で返す予定でした。在学中に結婚し、子供が生まれました。妻の支えや、増えていく家族を養う責任感に後押しされて成績は上がり、卒業して生涯取り組める仕事に就きたいとさらに思うようになりました。卒業後、新たに得た自由時間の一部を、仕事に関する勉強や、長年学びたかった教会歴史や一般教育の本を読むことに充てました。

オークス姉妹——教育に関して女性が進む道や経験することは男性と異なる場合が多々あります。わたしが育った時代は、女性が自立して働きたい場合の選択肢は教師か看護師しかないような時代でした。わたしの「問題」は、そ

のどちらも頭になかったことです。経済的に自立できるとも、自立しなければならないとも思いませんでした。学ぶことは好きでしたし、働く方法も知っていました。実のところ、働くのは大好きでした。夏休みには様々なアルバイトをし、学校の成績も良好でした。完全に自活する必要があるという現実気づいたとき、途方に暮れました。行く手にほんやりと見えてきた、思いがけない難題に足がすくみそうでした。わたしには実際に役立つような職業技術はありませんでした。教養科目で学んだことは心を豊かにしてくれましたが、今度は懐を豊かにする必要がありました。

自活するのに必要な技能を身に付けようと大学院へ進みました。勉学に費やした全時間を楽しみましたし、新しい概念に触れただけでなく、自分の新たな能力も発見しました。それまで自分は内気で頼りないと感じていましたが、今度は自力で生活していける能力があると感じることができました。

岐路に立つ

将来何を目指すべきか分からないことほどどかしいことはありません。一方、新たな能力を発見することほど報われることはありません。祝福師の祝福を読み、生まれ持った素質や才能について考え、前に進んでください。最初の一步を踏み出せば道は開きます。例えば、オークス姉妹が英文学を学び始めたとき、まさか将来ボストンの出版社で働くことになるとは夢にも思いませんでした。オークス長老が会計学を学んでいたとき、まさか法学の道を選んでブリガム・ヤング大学に通い、そしてユタ州最高裁判所で働くことになるとは思いませんでした。主は、「万事を〔わたしたちの〕益とな

御^み ^{たま}霊によって
学ぶことは
教室や学校の
試験勉強に限りません。
生活の中で行う
あらゆることに関して、
そして家庭、職場、
教会など、
わたしたちが活動する
あらゆる場所で
できることなのです。





教育は 学校教育に 限定されません。

生涯学ぶことにより、
周囲の世界の営みや
美点に気づき、
楽しむ力が伸びます。

るようにして下さい」います(ローマ8:28)。そして、わたしたちが教育を受ける機会は、人生の展開に合わせて徐々に訪れるのです。

教育は永遠に役立つものであり、現世で身に付けたあらゆる有用な知識や知恵、「英知の一切」は「復活の時にわたしたちとともによみがえ」ります(教義と聖約130:18)。ですから、何を学ぶかを慎重に選ばなければなりません。

多くの人々、とりわけ女性が、自信をなくし、自分は成功しないの

ではないかと考えるのは残念なことです。2005年3月、ブリガム・ヤング大学学長のセシル・O・サミュエルソン・ジュニア長老は、数学、科学、工学を学んでいる女子学生に向けて次のように述べています。「皆さんの教授の一人から聞きました。……皆さんの中には、男子学生と比べて能力や将来性が劣っていると感じ、自信を持ってない人がいるようです。男子学生と同じ成績を取ってもそう思い込んでしまうようです。自分の才能、技量、素質、能力を認めてください。神から授けられた賜物^{たまもの}について誤解しないでください。」⁷

特に女性が専門職を目指そうとするときに、周囲から否定的な意見を聞くことがあるかもしれません。20代後半になり、自活の問題に直面したある若い姉妹からアドバイスを求める手紙を受けました。彼女は法学を学ぶことについて教会のある指導者に相談しました。すると

その指導者は、やめた方がよいと言ったそうです。わたしたちは彼女の能力や限界について何も知りません。その助言はそのような情報に基づいていたのかもしれませんが、彼女の状況に即して靈感によって与えられたのかもしれませんが、しかし、手紙から彼女の決意の固さが感じられ、自分の可能性の限界に挑戦するよう彼女に勧めるべきであることは明らかでした。

トーマス・S・モンソン大管長は2007年9月29日に開かれた中央扶助協会集会で、女性に向けてこのように語りました。「自分の力に見合った務めを祈り求めるのではなく、務めを果たせるだけの力を求めてください。そうすれば、皆さんの働きよりも、皆さん自身が奇跡となるでしょう。」⁸

大学を卒業して経済的に安定する必要から、男性も女性も結婚を後回しにする誘惑に駆られるのではないかと危惧しています。キャリアはこの世では価値のあるものです。しかしキャリアを積むのに不都合だからといって、永遠の価値を持つ結婚ができなくなるような仕事の道に進むのは、永遠の見地に立てばあまりに近視眼的です。

ある友人は娘に同行してアメリカ東部にある幾つかの大学院を見学しました。勉強熱心で才能豊かな娘は、自分が選んだ中で最も良い学校に入るには、学費を支払うために高額の



ローンを組む必要があることを知っていました。最高の教育はそれだけの価値があるものです。しかし、友人の娘は祈って、高額な借金は結婚できない理由にはならないとしても、仕事を辞めて子育てに専念するという選択ができなくなるかもしれないと感じました。賢くあってください。一人一人は違います。主の助言を求めるなら、主はあなたにとって何が最良かを教えてください。

学ぶことを渴望する

七十人会長会のジェイ・E・ジェンセン長老は、わたしたちは常に「学び、成長する意欲を持ち続ける」必要があると教えています。⁹ この意欲は、永遠の優先順位を基としていなければなりません。

職業能力を増し加えること以上に、情緒的に安定し、よい人間関係を築き、よい親や市民になる方法を身に付けることを望むべきです。新しいことを身に付けることほど充実感のある楽しいことはありません。学ぶことによって、大きな幸福や充足感、報酬が得られます。教育は学校教育に限定されません。生涯学ぶことにより、周囲の世界の営みや美点に気づき、楽しむ力が伸びます。この種の学習とは、読書や、インターネットなどの新技術を賢明に選択して使うだけにとどまらず、芸術的な活動も含まれます。友人との会話、美術館やコンサートに出向くこと、奉仕の機会など、人との交わりや様々な場所で経験することも含まれます。わたしたちは興味を広げ、人生を楽しむべきです。

目標を達成するために大変な努力をしなければならないこともあるかもしれませんが、学ぶためにささげた努力に見合った成長ができます。困難を乗り越えるときに身に付ける力は永遠の来世に持っていくことができます。経済的、あるいは知的に恵まれているおかげで楽をしている人々をうらやむべきではありません。成長は楽をして遂げられるものではありません。今、楽に生活している人は、別の犠牲を払って成長しなければなりません。さもなければ、人生の目的である進歩をあきらめなければならないのです。

何よりも重要なことに、聖文や教会の出版物を研究し、教会へ行き、神殿に参入することによって霊的な教育を受け続ける義務を負っています。命の言葉をよく味わうことはわたしたちを豊かにし、愛する人々を教える能力を高め、わたした

ち自身を永遠の命に備えさせてくれます。

教育を受ける最終目的は、わたしたちが王国でよりよい親や僕になることです。長い目で見て、心を広げ、永遠に備えさせてくれるのは、大学の成績表の数値ではなく、自らがどれだけ成長し、どれだけの知識や知恵を蓄えたかなのです。御霊にかかわる事柄は永遠であり、神権の力によって結び固められた家族関係は究極の御霊の実です。教育は神の賜物であり、人の益となるよう活用するときにわたしたちの宗教のかなめ石となるのです。■



注

1. J・ルーベン・クラーク・ジュニア, "Charge to President Howard S. McDonald," *Improvement Era*, 1946年1月号, 15
2. ブリガム・ヤング, "Remarks by President Brigham Young," *Deseret News*, 1860年3月14日付, 11
3. リチャード・フォアマン. ニコラス・カー, "Is Google Making Us Stupid?" *Atlantic Monthly*, 2008年7・8月号, 63で引用
4. スペンサー・W・キンボール「歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール」(メルキゼデク神権および扶助協会学習課程), 222
5. この段落および後の数段落の内容は、クリステン・M・オークス, *A Single Voice* (2008年) から抜粋
6. ヘンリー・B・アイリング, "Education for Real Life," *Ensign*, 2002年10月号, 18-19
7. セシル・O・サミュエルソン・ジュニア, "What Will Be Relevant," 未刊の講話
8. トーマス・S・モンソン「あなたを導く3つの目標」『リアホナ』2007年11月号, 120
9. ジェイ・E・ジェンセンからダリン・H・オークスにあてた手紙, 2008年4月23日付





2マイルの精神

教会機関誌

ポール・バンデンバーグ

スタイン・アーサー・アンダーセンは、15歳くらいのころ、教会に活発ではありませんでした。家族も同様でした。何度か引っ越しを繰り返しノルウェーの各地を転々とした彼らは、当時スタバンガーに住んでいました。スタバンガーはノルウェーで4番目に大きい都市で、南西海岸沿いに位置します。スタインは何回かスタバンガーの教会に行き、同じ地域に住む数人の末日聖徒の青少年と出会いました。特に一人の若い男性がスタインの心に強い印象を残しました。彼の名前はトゥール・ラッセ・ピエルグといいました。

当時スタインはまれにしか教会に行っていないでしたが、そんなある日、教会でトゥール・ラッセと出会いました。「わたしよりも2、3歳年上で、ほんとうに目を引きました」とスタインは言います。

「彼といるとよい気持ちになりましたし、かっこいい人だと思いました。」スタインがもしトゥール・ラッセにあこがれていなかったら、トゥール・ラッセがスタインの家を訪れて特別な招待をしたときにも耳を貸さなかったでしょう。

トゥール・ラッセがスタインを招待しに来たのは、1970年代半ば、ノルウェーでセミナープログラムが始まり、トゥール・ラッセが最初の教師に召されたときのことでした。当時わずか18歳だったトゥール・ラッセはそのような大きな責任を引き受けることに不安でした。

「そのことについて何度も祈りました」と彼は振り返ります。

そして一つのことがはっきりと分かりました。それは、自分にはその地域の活発でない青少年に手を差し伸べたいという気持ちがあるということでした。トゥール・ラッセはこう語ります。「スタイン・アーサーに会いに行くべきだと、すぐに思いました。」

スタインは言います。「恐らくわたしは名簿上の一つの名前にすぎなかったことでしょう。」しかしトゥール・ラッセにとって、スタインはそれ以上の存在でした。トゥール・ラッセはスタインの聡明さや、物静かで毅然とした態度に感銘を受けていました。それでじかに訪問し、新しいセミナープログラムに参加するよう勧めることにしたのです。

トゥール・ラッセは事前にスタインの両親に電話をし、自分が訪問する時間にスタインが必ず家にいるようにしてほしいと頼みました。スタインの家に行くには、まずフェリー乗り場までバスで35分、それからフェリーに乗って45分、その後さらに30分歩く必要がありました。「そのことをいつも思い出します」とスタインは語ります。「トゥール・ラッセはわたしのためにもう1マイル余分に歩くことを惜しかなかったのです。」

二人は約35年前のあの日に感じた御霊をよく覚えています。あの日ダイニングルームに座りながら、スタインは自分がしていたあらゆることについて思い巡らしました。「トランペットも吹いていましたし、サッカーやボーイスカウト、ほかにもいろいろやっていました。とにかく忙しかったのです。」

「セミナーについて語りながらトゥール・ラッセはわたしを見てこう言いました。『スタイン・アーサー、セミナープログラムに登録してほくたちと一緒に聖文を勉強しないか。』わたしは暖炉のそばに座っていて、『はい』と答えました。普通ならどう考えても、断るべきところですが。時間が無いのですから。でも、『はい』と答えていました。それがすべての始まりだったのです。」

ほんの少しの
努力が
大きな成果を
生むことが
あるのです。

「すべて」の中には毎朝早く起きて自宅で聖文やセミナーのその日の課題を勉強することが含まれていました。さらに、4, 5人の生徒から成るその小さなクラスは週に1度集まりました。「朝早く一人で読んでいると次第に御霊を感じるようになりました。わたしは、毎朝きちんと起きました」とスタインは言います。「しばらくすると、朝勉強しなければ、その日は何かが違うとを感じるようになりました。そして知らず知らずのうちに証^{あかし}を得始めたのです。」

スタインはこう説明します。「しばらくして、その気持ちが何であったか分かりました。学んでいることに対してよい気持ちが出て、御霊を感じていました。自分が学んでいる教えは正しいと感じたのです。そして、この教えを土台にして自分の人生を築きたいと思いました。」

でもスタインはなぜ最初、あれほど忙しかったのに「はい」と答えたのでしょうか。そのことについてスタインはこう言っています。「聖霊の影響があったのだと思います。わたしは何らかの方法で備えられていたのでしょうか。だから、トゥール・ラッセが信仰をもっともう1マイル余分に歩いてくれたとき、わ

たしはすんなり彼の勧めを受け入れました。主の業はこのようにして行われるのです。」

それからおよそ1年後、トゥール・ラッセは伝道に出る決意をし、ノルウェーで奉仕するよう召されました。その間、スタインは福音に対する証をさらに強めました。スタインは言います。「トゥールが伝道から帰還したとき、わたしも伝道について真剣に考え始めました。主に仕えたいと思いましたが、もし伝道に出なかったら一生後悔するかもしれないと考えて、伝道に出るべきだという結論に達しました。」

伝道について神権指導者に話した帰り道、スタインは空を飛ぶような心地で足取り軽やかに帰宅しました。(トゥール・ラッセと同じノルウェーでの)伝道に赴く前に、スタインはオスロのユースカンファレンスで将来妻となるヒルデと出会いました。スタインの伝道中、二人は文通し、帰還後結婚しました。彼らの間には現在4人の子供がいます。息子二人は神殿で結婚し、娘二人はまだ家にいてセミナーに熱心です。

「つまり、トゥール・ラッセがうちに来てくれたあの夜がわたしの全人生を変えたのです」とスタインは語ります。その訪問がきっかけとなり、福音にしっかりと根を下ろし、妻となる女性と出会い、伝道に出て、家族を築く道を歩み始めたのです。「わたしは支部会長、地方部会長、ビショップとして奉仕してきました。すべてはトゥール・ラッセがうちに来てくれて、セミナーを始めてくれたおかげです。」すべてはトゥール・ラッセが進んで2マイルを歩いたおかげなのです。■

「つまり、トゥール・ラッセが
うちに来てくれたあの夜が
わたしの全人生を
変えたのです」
とスタインは語ります。



アイダ・アンダーセン(右)と姉のアネ、両親のヒルデとスタイン

手を挙げて

学校の先生が教会について真実ではないことを教え始めたらどうしますか。スタイン・アンダーセンの末娘のアイダはまさにそのような状況を経験しました。アイダの先生は、モルモン教徒は多妻結婚を行っているとは度々教えました。そのときアイダは何と言えよいか分からなかったため、何もしませんでした。しかし、先生が教会について間違っただけの情報を再び伝え始めたので、アイダは何かしなければならぬと感じました。

「わたしは手を挙げて、先生の言っていることは間違っていると伝えました」とアイダは語ります。「わたしは、自分は末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であると言いました。先生はユタ州ではモルモン教徒が何人も妻を持っていると言いました。わた

しは先生に、アメリカには多妻結婚を行うグループはあるけれども、どれも教会には属していないと説明しました。

翌日、先生が廊下で声をかけてきて、わたしに言ったことにとっても感謝したと言ってくれました。先生は教会について間違っただけのことを言ったことを謝りました。教会についてあまり知らないけれど、もっと知りたいと思っていること、そしてクラスの中にもっと知りたいと思っている子がきつとたくさんいるだろうと言いました。そして、クラスで教会について発表してほしいと頼まれました。

4日後、わたしはクラスで発表しました。とても緊張しました。学校では、いちばん仲のいい友達以外にはあまり教会のことを話したことがありませんでした。クラスのほとんどはわたしが教会員であることを知っていましたが、その程度でした。わたしは何を話すべきかよく考え、祈りました。助けが

あるように父に祝福もしてもらいました。

先生はクラスのみなみにわたしが教会について話すことを伝えました。わたしが立ち上がったとき、教室は静まり返っていました。発表を始めると、全員がノートにメモを取りました。わたしは30分くらい話しました。現代の教会について、福音の回復や救いの計画、宣教師、教会の標準について話しました。その後、クラスメートからたくさん質問されました。それまでは自分が必ずしも正しい答えを知っているかどうか分からなかったため、教会について聞かれるといつも緊張しました。でも、そのときは緊張しませんでしたし、難なく質問に答えることができました。

クラスメートはとても驚いていました。みんな、わたしが自分の信じることをはっきり語ったことを褒めてくれました。」

夜遅くまで勉強

大学を卒業する時が来たとき、福音の原則がそれまでのわたしの生活の霊的な面だけでなく、この世的な面をも祝福してきたことを知りました。

シンシヤ・ベロニカ・サラザール・マルケス

若い女性るとき、教会で受けた召しは初等協会の子供を教えることがほとんどで、その影響で初等教育の学位を目指すことにしました。しかし、教会の教えがわたしの教育に影響を及ぼしたのは大学の専攻だけではありません。それがはっきりと分かったのは、卒業の準備をしていたときのことでした。

最後に仕上げなければならなかった課題は卒業論文で、3人の試験官の前で口頭試問を受けます。試験官の中には、講義を教えてくれた先生もいました。

念入りに論文を書き上げた後、口頭試問の前の晩、少しの間ボーイフレンドの家族と過ごしました。帰宅しようとしたとき、ボーイフレンドのお母さんが、すべてうまくいくように願っていると言ってくれ、「備えていれば恐れることはない」と教えてくれました(教義と聖約38:30)。

翌日になり、様々な思い出が脳裏に浮かんできまし

強 し ない

た。より高い教育を受けるために生まれ育った町を離れようと決めたことや、学費を用意するために家族が払ってくれた様々な犠牲を思い出しました。家族をがっかりさせるわけにはいきません。何としても最終試験に合格しなければなりませんでした。

同期生たちも試験の順番が来るのを待っていました。試験官がどのような質問をしてくるかだれもが心配していましたが、わたしは助けがあるように祈っていましたし、論文の準備、研究、執筆に費やしてきた努力を神が御存じであることを知っていたので安心していました。

わたしの番になりました。試験官たちに論文の内容を説明した後、質問に答え始めました。採り上げたテーマについて幾つか質問があった後、一人の試験官が尋ねました。「この論文を書くのに時間はどれくらいかかりましたか。」

わたしは答えました。「かなりかかりました。革新的なものにしたかったので、全力で書き上げました。」

「夜遅くまでやっていたのですか。」

「いいえ。わたしは普段夜遅くまで勉強しません。やるべきことが全部できるように一日の時間を調整します。」

試験官たちは驚きを隠せませんでした。同じ試験官がこう言いました。「夜遅くまでやらなかったというのは不思議ですね。同期生は何日も夜遅くまで頑張ったと言っていますよ。」

別の試験官がこう言いました。「この学生についてちょっとお教えしましょう。何でもする時間があるんです。よく知っているから言えることですが、勉強する時間、友達や家族のための時間、そして教会に行く時間だって取れるんです。」

先ほどの試験官が再び驚いて、尋ねました。「ほんとうですか。どの教会ですか。」

「わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員です。」
一人が言いました。「ああ、その教会なら知っています。」
「次の日も元気に活動できるように早く寝るよう教えられています。」

専門的な試験の最中に宗教について聞かれることに驚きつつも、わたしは福音について落ち着いて安心して話していました。

「あなたの論文には強い気持ちがかもっています。すばらしいです。これも教会で教わった習慣によるものでしょうか。」

「はい。わたしは教会で子供を教える方法を学びました。そして、それは大学の勉強でもとても役立ちました。」

「水の中の魚のように、この論文もすいすい書けたのでしょ
うね」と一人の試験官が冗談交じりに言いました。「教会で教
わった価値観が非常に役立っているようですから、これから
もぜひ教会に通い続けてください。」

間もなく試験官が判定会義を始めるためわたしは部屋を退出しました。2分後、中へ戻るように言われました。

「われわれの意見をまとめるのは難しくありませんでしたよ。あなたの模範的な言動、優秀な成績、そして今日口頭試験に答えてくれた論文から判断して、全員一致であなたの卒業を認め、特別賞を授与します。おめでとうございます。」

このことを伝えると、家族は喜びの涙を流しました。

天の御父が「疲れることのないように、早く床に就きなさい。あなたがたの体と精神が活気づけられるように、早起きをしなさい」と命じられたのは、わたしたちを祝福するためであることを証します(教義と聖約88:124)。主が福音によってわたしたちが生活のあらゆる面で幸福になれるようにしてください。さったことに感謝します。■



希望の光を ともす

ブラジルの何千人という末日聖徒にとって、永代教育基金は人生を変える祝福となっています。

教会機関誌

マイケル・R・モリス

デイルソン・マシエル・デ・カストロ・ジュニアはサンパウロで失業したとき、両親と同居するためブラジル北東部の大きな港町レシフェに妻と引っ越しました。電気通信産業での経験があったにもかかわらず、レシフェで見つけたのは雑用の仕事だけでした。

「わたしたちにとって、とてもつらい時期でした」とデイルソンは振り返ります。洪水で持ち物を全部失うと、二人の置かれた状況はさらに悪化しました。

このどん底の中で、ブラジル・サンパウロ南伝道部で奉仕したことがあるデイルソンは、地域七十人でありインスティテュートディレクターを務めていたグーテンベルグ・アモリム長老に、生涯の仕事や教育の選択肢について相談しました。デイルソンは自分が興味を持っていることを話すうちに、医療を学ぶべきだという霊的な促しを感じました。当時始まったばかりの永代教育基金のおかげで、促しのとおりにデイルソンは2003年から看護学を学び始め、1年半の後医療職に就きました。

「基金がなかったら、必要なコースを受けるのは無理でした」とレシフェの公立病院で働くデイルソンは語ります。妻のアレクサンドラも同じで、永代教育基金がなければ、教師になるために必要な教育ローンを受けられなかったことでしょう。

「6年前、わたしたちは無職でした。わたしたちが成し遂げてきたことは、どれも永代教育基金がなければできませんでした。この基金はわたしたちの人生を変えてくれたのです。」

主からの答え

ブラジルの教会員が永代教育基金について語るとき、「miraculoso (奇跡的)」、「inspirado (靈感を受けた)」、「maravilhoso (素晴らしい)」といった言葉を用いずにはいられません。これは、同基金がゴードン・B・ヒンクレー大管長(1910 - 2008年)の予測したとおりのことを成し遂げているからです。大管長はこのように言いました。永代教育基金は「若い男女、彼らが将来養う家族、強力な地元の指導者が養成されるために祝福される教会員など、そのおかげで生活が潤うすべての人にとって祝福となるでしょう。そして、「何千もの人々を貧困の泥沼から救い、知識と繁栄の明るい未来へと押し上げ」るでしょう。¹

ヒンクレー大管長がこのプログラムを発表したとき、ブラジルの教会指導者は、ブラジルの末日聖徒、とりわけ若い帰還宣教師の教育や雇用について悩みを抱えていました。セミナーおよびインスティテュートの地域ディレクターであるパウロ・R・グラールもその一人です。

グラール兄弟はこう語ります。「主がヒンクレー大管長にこの素晴らしい基金の設立を示されるまでは、どうしたらよいか分かりませんでした。それまでブラジルの多くの若人は、伝道に出て帰還しても、進学も就職もできませんでした。今度は帰還してから、必要なら基金があります。若人にとって大きな祝福であり強みです。希望をもたらします。」

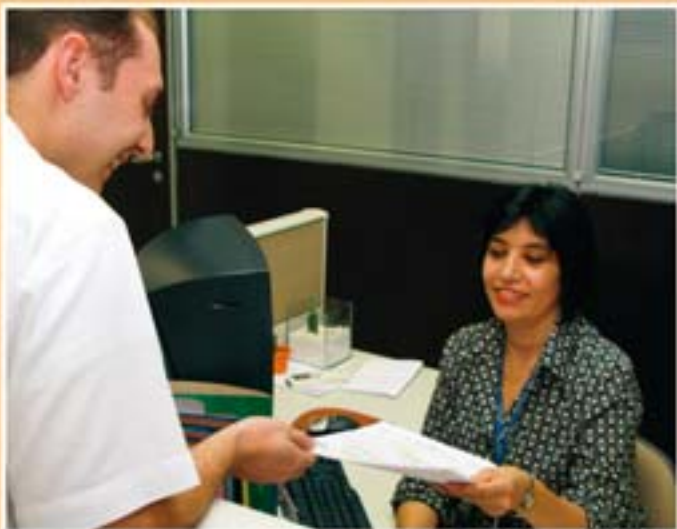
現在ブラジルでは約1万人の末日聖徒が永代教育基金の

永代教育基金の助けによって、
ディルソン・マシエル・
デ・カストロ・ジュニアは
ブラジルのレシフェで
職業に関して
霊的な促しを受け、
看護師となった。
下—
植民都市であったオリンダ
から見たレシフェ。





上から—
 クリティーバの古い町並みが残る
 ラルゴ・ダオルデムの商店街。
 永代教育基金は、
 リカルド・オーレリオ・
 ダシルバ・フェーサが進学し、
 就職後も
 進歩し続ける鍵となっている。
 末日聖徒である
 同僚のレナート・A・ロメロ(左)と
 ジョアオ・B・モレイラ(中央)とともに
 仕事の打ち合わせをしている
 モーリシオ・A・アラウジョ。
 シルビア・O・H・バラと、
 セミナリー・インスティテュートの
 地域秘書のアダン・タルマン。



助けを受け、教育の幅を広げ、その結果就職先の幅を広げています。ブラジルには強い経済力があるので、教育を受け、特に伝道で磨いた特質を兼ね備えていれば、雇用の機会は豊かにあります。

扉を開く

地域七十人であり、レシフェ北インスティテュートのディレクターを務めるペドロ・ペナ長老は、帰還宣教師は雇用主が求める条件を満たしていると語ります。「彼らの経験、学習習慣、外見、道徳的な振る舞いは、就職への扉をあっという間に開きます。帰還宣教師は出世も早く、彼らの振る舞いは人々を教会へと導きます。」

2002年にブラジル・サンパウロ北伝道部で伝道を終えた後、リカルド・オーレリオ・ダシルバ・フェーサは永代教育基金を利用して経営学を4年間学び、学位を取得しました。

リカルドは語ります。「基金のおかげでわたしは成長し、仕事や結婚に備え、教会でよりよく奉仕ができるようになりました。」多くの永代教育基金受給者と同様に、大学を卒業する前に就職の内定を受けました。「この基金はわたしの人生を祝福してくれました。毎月ローンを返済できることに感謝しています。そうすることで、他の人も同じように基金を利用できるのです。」

伝道中、リカルドは人々と話し、懸命に学び、よい特質を従順に身に付けたので、そのおかげで、よい学生、よい従業員になりました。

レシフェの南方、スアベ港の会社で在庫管理の仕事をするリカルドは言います。「多くの教授から、言葉で説明できない何か違う雰囲気はわたしにはあると言われました。わたしは彼らに、それは宗教上の原則のせいですよと言いました。」そう答えたおかげで、リカルドは教授やそのほか様々な人に教会について話す機会を得ました。

永代教育基金の恩恵を受けた最初のブラジル人帰還宣教師の一人、モーリシオ・A・アラウジョはこのように付け加えています。「仕事でキャリアを積んでいくと、模範によって人に影響を及ぼす機会が増えます。時々、『君は何かが違うね。奥さんに誠実だし、言ったことは必ず実行する』と言われる。永代教育基金を利用し、自ら努力することで祝福を受け、人にも祝福をもたらすことができます。」

1990年代後半にブラジル・リオデジャネイロ伝道部で奉仕し



永代教育基金は どのように 人々の生活を 祝福しているのでしょうか

たモーリシオは、永代教育基金を使って顧客管理の課程を受講してから何度も昇進しています。サンパウロにある時間管理トレーニングの国際企業に就職し、営業マンからチームリーダーになり、さらには取締役会を管理するまでになりました。

彼は言います。「永代教育基金は神の靈感によって設けられたものです。この基金はわたしが教育を受け、キャリアを積むのに必要な鍵かぎでした。」

優良投資

ガブリエル・サロマン・ネト氏は末日聖徒ではありませんが、同じように永代教育基金から祝福を受けたと感じています。ブラジルの多くの雇用主を代表してこう言います。「皆さんの教会が行っていることはすばらしいことです。」

サンパウロで自動販売機を扱う大企業の経営者兼共同所有者であるネト氏には、感謝したいことがあります。ネト氏は、永代教育基金を利用して経営学の学位を取得した教会員のシルビア・O・H・バラの能力にとっても感心し、自分の専属秘書として雇いました。

「わたしたちは彼女の仕事ぶりに満足しています。よく働き、有能です。彼女を信頼しています。皆さんの教会が彼女に投資したおかげで、皆さんも、彼女も、わたしたちも益を受けています。」

シルビアは永代教育基金にも、教会員であることにも感謝していて、自分が所属するサンパウロのワードで、会員にも、会員でない人にも英語を教えています。「わたし自身が受けたように、人に与えたいのです。」

シルビアの成功例が示すように、ブラジルで永代教育基金を利用しているのは若い兄弟だけではなくありません。経済的な理由から、ブラジルに住む多くの末日聖徒の女性も仕事を探さなければなりません。

永代教育基金は、24か国以上の教会職業支援センターやインスティテュートと共同で、帰還宣教師や他の若い末日聖徒が職業訓練や技術訓練を受けたり、進学したりできるように助けています。永代教育基金の利用希望者はまずインスティテュートや、職業支援センターで開かれるキャリアワークショップや起業ワークショップに登録します。これらのワークショップでは、会員も会員でない人も同じように助け、各人が自分の才能や技術に気づき、教育や職業において進むべき新たな道を見いだせるようにします。訓練や教育を終えた後、永代教育基金受給者は毎月無理のない金額を返済します。

ブラジル南部のクリティーバの教会職業支援センターでマネージャーを務めるロリバル・ピアナ・デアギーラは次のように語ります。「ブラジルのほとんどの女性は、新車や高級な洋服が欲しいからではなく、必要に迫られて働きます。彼女たちは家族に食物を与え、子供に衣服を与え、高い教育を受けさせたいのです。」

より幸福になり、証あかしを強める

夫が家族を養うために必死で働いていても、ケイテ・デリマ・A・アメドも、ビビアナ・トレス・ノゲーラも、家計をやり繰りするのに苦勞していました。二人にとって永代教育基金は大きな祝福でした。

しかし、ケイテが1年半の保安技師養成課程に登録したとき、教会にあまり活発でない家族はいぶかりました。それでもケイテは学習に秀で、2007年にその分野でフルタイムの仕事をするように誘われました。

ケイテは、クリティーバに近いサンノゼ・ドス・ピナイスの企業で、安全点検

者、安全訓練者、安全実行者として雇われた女性として草分け的存在です。「この基金のおかげで訓練を受け、仕事を得ることができました。それだけでなく、自尊心が高められ、自分の能力に自信を持てるようになりました。この靈感されたプログラムによって、わたしの家族はいっそう幸福になり、強い証あかしを持てるようになりました。」

ケイテの両親ときょうだいは、ケイテが達成したこと、ケイテの固い決意、そして家族が永代教育基金から祝福を受けていることに心を動かされ、再び教会に通うようになりました。「わたしの家族は教会が人を高めていることを改めて知りました。霊的な面だけでなく、豊かな生活を送るために必要なあらゆる重要な事柄について進歩できるよう、教会が様々な方法で助けていることを思い起こしてくれました。」

ビビアナと夫ラファエルは2002年に仕事を求めてコロンビ



上—
クリティーバの
教会職業支援センターの
マネージャー、
ロリバル・ピアナ・
デアギーラと
安全対策について話し合う
ケイテ・デリマ・A・アメド。
下—
マナウスの自宅で
仕事をする
ビビアナ・トレス・ノゲーラ。
挿入—
ビビアナ、夫ラファエルと
子供たち。

アからマナウスに引っ越しました。ブラジル北部にあるマナウスは主要な産業が集中する地域の一つです。「祈り、家族会議をし、神権指導者からの導きに従い、キャリアワークショップに参加することによって、わたしたちに対する天の御父の御心を知り、正しいタイミングで正しい決断を下すことができました」とビビアナは言います。彼女は国際ビジネスについて学ぶために永代教育基金を利用すべきだという促しを感じました。

2007年、ビビアナはマナウスのスーパーで輸入品を管理する仕事を始めました。家族はさらに収入を必要としていましたが、ビビアナは妊娠し仕事を辞めました。4人目となるその子が生まれて数か月後、ビビアナは別の会社で国際貿易ディレクターとして働くよう誘われました。母語のスペイン語に加えてポルトガル語も話せるようになっていたビビアナは、ブラジル

周辺のスペイン語圏の国々と取り引きするうえで貴重な存在となりました。

ビビアナはこう語ります。「仕事の打診を受けたとき、わたしはこう言いました。『わたしには4人の子供がいます。朝8時から夜6時まで働くことはできません。』上司はわたしの能力をととても信頼していると告げ、こう言いました。『信頼できる人が必要なのです。在宅で仕事をしてください。』わたしはびっくりしました。」

上の子供たちが学校に行って、赤ん坊が昼寝をしている間、ビビアナはインターネットとパソコンを使って家で仕事をします。会社にはごくたまにしか行きません。

ラファエルは、家族が受けた祝福は偶然ではないと言います。「祈りによって多くの決断をし、教会からの援助を受けながら努力したおかげで、これらの祝福を受けることができたのです。」

希望の光

ブラジルの永代教育基金ディレクターのギルマル・ディアス・ダシルバは、ブラジルの末日聖徒の中には教育を受けた後も就職先を見つけるのが難しい人もいます。「しかし永代教育基金を受けた大部分の人は仕事で進歩し、より良い生活を送っています。この基金はわが国において成功を取っています。」

その成功は、トーマス・S・モンソン大管長の言葉を借りると、「状況を変えることは不可能だとあきらめていた人々の目に希望の光をともし、今では輝かしい未来を手にする機会を与えているのです。」² ■

注

1. ゴードン・B・ヒンクレー「永代教育基金」『リアホナ』2001年7月号, 62:「さらに親切になる必要性」『リアホナ』2006年5月号, 61
2. トーマス・S・モンソン「偉大な模範に倣う」『リアホナ』2007年10月号, 6



御存じでしたか？

ハンガリーにおける教会

1887年、ハンガリー人ミッシャ・マルコウはトルコのコンスタンチノーブル(イスタンブール)の近くで改宗しました。1899年に母国で宣教師として奉仕しましたが、伝道活動のために逮捕され、ハンガリーから追放されました。周辺の国々でも福音を広めようとしたのですが、そこでも困難に遭ったため、マルコウ長老と同僚は政府に追い出されるまでハンガリー・テメシバルで教えを説きました。国を出る前の日、2人は12人にバプテスマと確認を施し、31人の会員を導く指導者を任命しました。

第一次世界大戦の前にはハンガリーで合計106人が教会に加わりました。大戦以後は政治的な規制から1980年代まで伝道活動は制限されました。

1988年6月、ハンガリー政府は教会を公に認めました。その1年後、トーマス・S・モンソン管長がハンガリーで最初の集会所を奉献しました。1990年6月にはハンガリー・ブダベスト伝道部が設立されました。

今日のハンガリーにおける教会の実情は次のとおりです。

会員数	4,253人
伝道部数	1
ワード/支部数	19
家族歴史センター数	5

www.lds.org の Newsroom から掲載。

『ボンダイ・レスキュー』からバギオ・レスキューへ

オーストラリアのテレビ番組『ボンダイ・レスキュー』で新米救助員としてよく知られるブレイク・マッケオンは去年5月、別の「救助」を行うために砂浜を離れることにしました。ブレイクはフィリピンのバギオで奉仕する召しを受けたのです。救助員仲間や視聴者に番組の中でこのことを報告し、心中を語りました。

「フィリピンに行くとき分かったとき、わくわくしました。海辺が恋しくなるのは確かですが、わたしにとって伝道に出ることは大切なのです。生まれてからずっとそのために準備してきました。」

ブレイクは語ります。「過去2年間、海辺以外の場所で働くことは考えられ

テレビ番組『ボンダイ・レスキュー』に出演していたブレイク・マッケオンはフィリピンで伝道する召しを受けました。



ませんでした。世界一の仕事でした。でも、これからの2年間でいちばんしたいことは伝道です。末日聖徒イエス・キリスト教会は、その教会の会員であると口で言うだけの宗教ではありません。その教えに従って生きる宗教なのです。教会はわたしの人生です。教会がなかったら、わたしはまったくの別人になっていたでしょう。」

これは何の数字でしょう

58,809

1985-2007年の間に
教会が世界中に配送した食糧のトン数



わたしの好きな聖句

「わたしは心の歌を喜ぶからである。まことに、義人の歌はわたしへの祈りである。それに対する答えとして、彼らの頭に祝福が注がれるであろう。」(教義と聖約25:12)

この聖句は、天の御父にとって音楽が大切なものであることを教えてくれます。音楽がそれほど美しく、福音の中で大切な役割を果たす存在となり得るのはすばらしいことです。

ハンガリー、ミスコルローラ・S、16歳

人生の指針

「皆さんの人生にとって最も重要な指針となる教えが、『若人の強さのために』に書かれています。」



大管長会第二顧問
ディーター・F・ウクトドルフ管長
「初めから終わりを知る」
「リアホナ」2006年5月号、44

歌と読み聞かせ

スティーブン・T・ケイス

妻のサンドラとわたしは南アフリカ・ダーバン伝道部で奉仕するよう召されました。それから、わたしたちは地域で奉仕する機会はないか探し始めました。その召しを受ける前、わたしは20年以上にわたってモルモンタバナクル合唱団の団員でしたし、妻は図書ボランティアとして小学校での読み聞かせに携わっていました。そのようなわけで、伝道部会長が近くの小さな町で伝道を開始するように決めるとき、わたしたちが役に立てる良い機会となると感じました。

わたしたちはその小さな町を訪れました。どの学校にも図書館はありませんで

した。町全体で小さな地域図書館が一つあるだけでした。若い長老たちがわたしたちを図書館長に紹介してくれました。わたしたちは、子供のためのお話の時間を週に1度開く企画について説明しました。最初は疑念を抱いていた館長も、しばらく考えた末、この企画を公表することに賛成してくれました。読み聞かせを実施する機会が与えられたのです。

初日に出席した子供は5人だけでしたが、その数は次第に増えていきました。数か月後、改宗して間もない会員で、流暢な英語とズルー語が話せる一人の若い女性に協力を求めました。その後、お話の時間への出席者はさらに増えていきました。この様子に図書館長も親たちも胸を躍らせました。

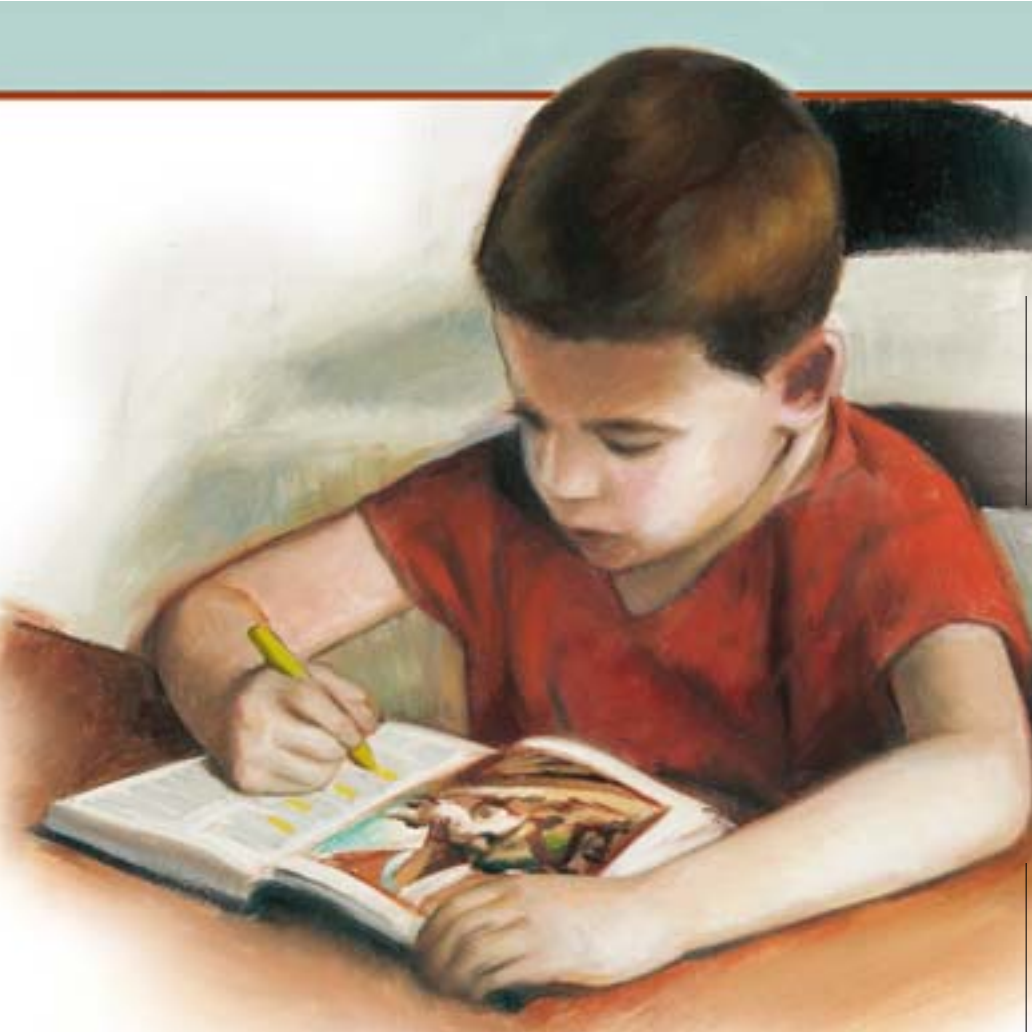
わたしたちは
英語と
ズルー語が
話せる
改宗して間もない
会員に
協力を求めました。
その後、
お話の時間に
出席する人はさらに
増えていきました。

ズルーの人たちは歌うことが大好きです。そこでお話の時間に簡単な歌と詩も取り入れました。伝道が終わるころには、歌とお話の時間は週に2、3回開かれ、参加する子供の数は100人を超えるようになっていました。何という祝福でしょう。ユタから遠く離れた地で出会った子供たちがわたしたちの歌を歌い、わたしたちの詩を目の前で口ずさみ始めたのです。

この地域で奉仕したことによってもたらされた祝福は、それだけではありませんでした。地元の教会員数が増え、日曜日の集会を開くための新しい施設が必要になったときに、図書館長がぜひ無料で図書館を使ってほしいと言ってきたのです。

わたしたちは、ほんとうに感謝しました。主の助けによって、自分たちの才能を生かし、地域社会に貢献し、伝道部の中の一つの地域で主の業を始める助けとなる方法が見つかったからです。■





夫とわたしは息子に
毎日自分でモルモン書を
読むように
チャレンジしました。

選び出して、その意味を聞くようになりました。毎日、怠ることなくモルモン書を読み続け、その年の終わるころには、わたしたちの期待をはるかに上回るレベルにまで読書力が伸びていました。

今では息子は6年生になり、並外れた読書力を身に付けています。そして、モルモン書を読んで授かった賜物^{たまもの}について、5人の弟や妹たちに教えています。わたしたちの子供は皆、モルモン書を読む習慣を身に付けることで読書力を大いに伸ばしてきました。また、モルモン書の持つ力強い真理の御霊^{みたま}を感じるようになり、彼らの証も強められています。■

伝道に出るために 学業をあきらめる べきでしょうか。

オニエブチ・オコロ

わたしは1992年に高校を卒業するとすぐに専任宣教師として働くための申請書を提出しました。召しを受けたのと時を同じくして、ナイジェリアで最も優秀な医科大学の入試に合格しました。

ナイジェリアでは医科大学への入試倍率は高く、入学を辞退するなど考えられないことでした。一部の友人や家族から伝道の召しの方を辞退するようにというプレッシャーを受けたとき、自分には宣教師として奉仕する責任があ

読み書きの賜物^{たまもの}

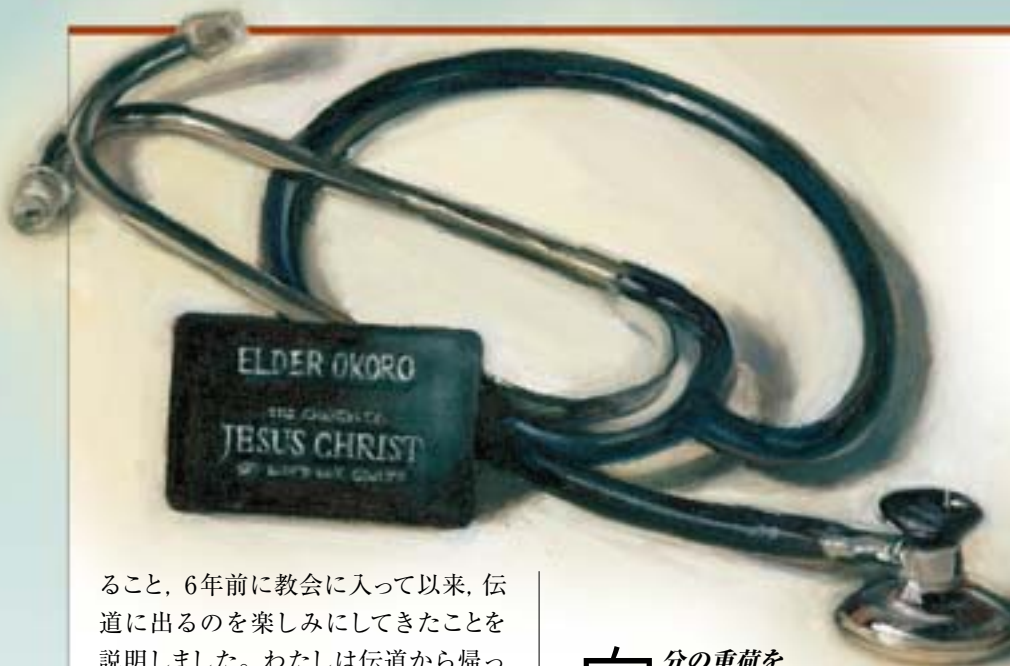
リネット・マッコンキー

長男は幼稚園が大好きで、園での活動もうまくいっているように見えました。ところが、1年生のときに、本が読めないことが分かりました。幾つかの単語を飛び飛びで読むことはできましたが、初歩的な読書課題すらてこずる状態でした。何か月たっても、息子の読む力はほとんど伸びません。夫とわたしの心配は募るばかりでした。

ある日のこと、何年も前にわたしの伝道部会長が教えてくれたことを思い出しました。わたしは外国語を話す伝道部に召されました。ロシア語を学ぶ難しさは宣教師一人一人に異なっていました。そこでわたしたちの伝道部会長は毎日、モルモン書をロシア語で読むようにと勧めました。モルモン書のおかげで、ロシア語によるコミュニケーション能力が高まると宣教師に約

束したのです。伝道部会長の言うとおりでした。やがてロシア語を話し理解するわたしの能力は高まり、証も強くなったのです。

伝道から帰還して何年もたっていましたが、気がつくとうわたしはこのように考えていました。「あの方法でわたしはロシア語を克服できたのだから、英語で困っている息子にだってうまくいかないはずはないわ。」息子にロシア語を学んだときの苦勞と伝道部会長の助言について話しました。その後で、夫とわたしは息子に毎日自分でモルモン書を読むようにチャレンジしました。息子はモルモン書を読み進める中で、神という言葉と主という言葉を見つける度に、マーカーでしるしを付けました。やがてイエスという言葉にもしるしを付けるようになりました。その後、息子は以前目にしたことのある単語を



ること、6年前に教会に入って以来、伝道に出るのを楽しみにしてきたことを説明しました。わたしは伝道から帰った後でも医科大学に再入学できると確信していました。しかし多くの人が、このように決定したことをきくと後悔するだろうと思っていました。

伝道に出る決意を支えてくれたホームティーチャーや家族、教会の友人に感謝しています。セミナーに出席し、聖文を研究し、福音に従った生活を送ることで、信念を貫き通すことができました。

宣教師として、個人的な目標を立て、一生懸命働きました。2年後、立派に義務を果たして解任されました。主は帰還宣教師を祝福されますが、試練を免除するとは約束しておられません。ナイジェリアの帰還宣教師は、失業や教育資金の不足といった試練を受けます。

伝道から帰還して3年の間に、3つの入試を受けて合格しましたが、医科大学への再入学は認められませんでした。その同じ3年間、仕事も見つかりませんでした。一部の友人や家族の判断が正しかったのかもしれない、医科大学への入学を断念したことは間違いだったのではないかといい思いに駆られました。

伝道中、わたしは自分の重荷を主にゆだねることを学びました。そこで今度も、自分の人生をいづれの方向に進めるかを主の御心に任せることにしました。そうするやいなや、物事は、わたしの当初の計画とは違った方向ではあ

自分の重荷を
主にゆだねるやいなや、
物事は、
わたしの当初の計画とは
違った方向ではありましたが、
好都合に動き始めました。

りましたが、好都合に動き始めました。

ある断食安息日にわたしは断食して主の助けを一心に求めることにしました。その日の夜、ドアをノックする音が聞こえました。ドアを開けると、驚いたことに、一人の知人が立っていました。6か月前に出席した警備員研修で会った人物でした。彼の兄の働いている会社で警備員の職に空きが出て、会社としては、すぐに新しい警備員を雇う必要があり、彼の心に浮かんだのがわたしだけだったというのです。

翌日、わたしはその会社に就職しました。その不思議な経験を通して、天の御父がわたしを見捨ててはおられなかったことを知り、天の御父に信頼を置く必要があることを理解しました。結果的には、その仕事がかきかけとなって、ほかの仕事が見つかりました。

神の祝福は物質的な成功だけで測れるものではありません。わたしは伝道から帰ってから何年もの間、物質的な安定を求めてもがき苦しみました。しかし、主はわたしを霊的に祝福して

くださいました。わたしの祝福師の祝福には、結婚するよとの勧告があり、大学で教育を受ける機会にあずかると記されていました。その祝福は実現しました。

医科大学に進むことはありませんでしたが、会計学と数学で同レベルの学位を取得することができました。主は最終的にわたしを祝福してくださり、結婚するために必要な経済的安定を与えてくださいました。

宣教師として立派に働いた人が、後により高い教育の機会を求めるときに、主は必ず祝福して下さいます。青年期の男性や女性にとって、専任宣教師としての奉仕から得られる経験、知識、祝福に勝るものはありません。■

どうぞ わたしの父を お救いください

ベルナデット・ガルシア・スト・ドミンゴ

真理を探し求め、宣教師を見つけたのは父でした。宣教師はわたしたちに福音を教え、それから間もなく、両親とわたしたち5人の兄弟姉妹がバプテスマを受けました。わたしたちの証は強くなっていきました。とりわけ救い主について、また家族について実に多くのことを学びました。

1992年、父はフィリピンのあるワードでビショップとして奉仕していたときに、心臓発作を起こし、会社から病院へ急送されました。父が集中治療を受けているという知らせを受けたとき、家族は愕然として、恐怖に打ちのめされそうでした。父が回復する見込みはほとんどありませんでした。母は涙を

流し、わたしたち全員に祈ってほしいと言いました。

それからわたしは時間の感覚が薄れていきました。父の数々の思い出が走馬灯のように浮かんできました。涙で顔をぬらしながら、ひざまずいて祈りました。心は重く、胸は今にも張り裂けそうでした。心の痛みを和らげ、恐れを取り除くために大声で叫びたいくらいでした。しかし、そうする代わりに、短く祈りました。「どうか父をお救いください。」それはどうしても聞き届けてもらう必要のある心からの祈りでした。

その夜、わたしは集中治療室への入室を許可されました。父はすでに昏睡状態に陥っていました。母とわたしたち兄弟姉妹は最悪の事態を覚悟しなければなりません。それは家族にとって苦痛に満ちた経験でした。将来が暗く不確かなものに思えました。無言で父に別れを告げたとき、わが家で初めて開いた家庭の夕べを思い出しました。皆で「家族は永遠に」という教会のビデオを見ました。

その夜、わたしが床に就く前に、父は静かに天の御父のもとへと帰りました。

父はわたしが22歳のときに亡くなりましたが、その出来事はわたしの人生に訪れた数え切れない変化の始まりでした。父がいなくなって、自分では気づいていない力があることを知りました。変化と成長をいやおうなしに経験したことにより、そのような経験をしないよりも多くのことを人生で成し遂げることができました。

天の御父はわたしの祈りのとおりにかなえてはくさいませんが、それでも自分の声が御父のもとへ届かなかったとは思いませんでした。わたしは御父が耳を傾けておられたことを知っています。御父はわた

しがどのような経験をしているのかすべて御存じでした。あのときわたしの家族が何を必要としているのか御存じでした。御父はわたしたちに必要なものを与えてくださいました。人生の試練を乗り越える力、現実に向かう力を与えてくださいました。さらに信仰をもって試練に向かう方法を教えてくださいました。

あの苦痛に満ちた日から15年以上がたちました。わたしは今でも学んでいますし、今でも福音を通して成長し続けています。現在、わたしには自分の家族があり、神殿で結び固められていることをほんとうにうれしく思っています。わたしは父が家族に教えてくれた福音の計画から決して目をそらさずに生きています。

天の御父はわたしの家族が何を必要としているのか御存じでした。わたしたちに信仰をもって試練に向かう方法を教えてくださいました。

イエス・キリストの贖いと復活によって、わたしたち家族がいつの日か再び一緒になれることを知っています。わたしにはたどるべき長い旅路がまだ残っています。しかし、その旅路の終わりに父と再会できることを思うとうれしくなります。■



家庭の夕べのためのアイデア

以下の提案は、家庭だけではなくクラスでのレッスンにおいても役立つことができます。皆さんの家庭やクラスに合わせて変更を加えてもよいでしょう。

「贖いはあなたにとってどんな意味がありますか」

14ページ——家族にニーファイについて知っていることをすべて分かち

合ってもらいます。難しい試練を経験したにもかかわらずニーファイが幸福だったのはなぜだと思うか尋ねます(2ニーファイ5:27参照)。「贖いによる幸福」の項目を要約します。ニーファイはどのように問題に対処したか、ニーファイの取り組み方はあなたの家族にどのように当てはまるか話し合います。記事の最後の2段落を読んで終わります。

「学問と末日聖徒」26ページ——前もって記事を読み、あなたの家族に

とって最も重要な段落を選んでおきます。選んでおいた段落を家族に読んでもらい、読んだことについて話し合います。記事の最後の2段落を読んで終わります。

「預言者の約束」F6ページ

——記事を読んだ後で、家族に聖典を無作為に開いてもらい、その中の1節を後から読んでもらいます。

定期的に聖典を読むことで家族の一人一人がどのように祝福されるか話し合います。エズラ・タフト・ベンソン大管長が与えた約束をもう一度読み(記事の冒頭を参照)、家族全員で常に聖文を読み続ける目標を設定します。

「学びたくて」F12ページ——子供たちに交代で言葉を使わずにジェスチャーで一つの職業を表してもらいます。ほかの人にそれが何の職業であるか当てさせます。その職業に就くため



数字は記事の最初のページを表します。

Fは「フレンド」の略 証、22, 32	悔い改め、14, F2
贖い、14, F2	幸福、14
イエス・キリスト、8, 14, 20, 21, F4	従順、14, 36
祈り、24, 46	初等協会、F4
永遠の命、14	真理、26
永遠の家族、46	スミス、ジョセフ、F10
永代教育基金、38	聖餐、14
教える、2, 32, 44	聖文研究、25, 45, F6
家族、2, 22, F6	聖霊、26
家庭訪問、25	セミナー、32
希望、38	伝道活動、2, 32, 44, 45
教育、21, 26, 36, 38, 44, 45, F12	バプテスマ、F15
教会に出席する、22	ハンガリー、43
教会の組織、22, F8	不死不滅、14
	復活、8, 14
	召し、32

には何を学ぶ必要があるか話し合います。物語を読みます。恐竜について学ぶ前にラッセルはどのようなことを知る必要があったか挙げてください。教義と聖約88:118を読んで終わります。

預言者ジョセフから学ぶ

わたしたちにとってお気に入りの家庭の夕べはジョセフ・スミスと最初の示現の物語をロールプレーすることでした。わたしが語り手で、孫たちが何人かの牧師とジョセフ・スミスの役を演じます。森を表す何本かの木の絵を描き、部屋の隅の壁にテープではり、牧師役のために「牧師」と書いた標示を何枚か作ります。いすと「ジョセフ」が学ぶ聖書も準備します。

それぞれの牧師がジョセフに言います。「わたしの教会が正しい教会だよ。ジョセフ、わたしの教会に入りなさい。」ジョセフは「分かりません」または「考えてみます」と答えます。牧師たち全員から語りかけられた後で、ジョセフはいすに座り、ヤコブの手紙第1章5節を大きな声で読みます。それからジョセフは「森」へ入り、ひざまずいて祈ります。天の御父とイエス・キリストの役を演じる人はだれもいません。わたした

ちは皆、それぞれの「ジョセフ」が森に入って祈るとき、敬虔になります。子供たちは交代で牧師になったり、ジョセフになったりします。

それからジョセフ・スミスが最初の示現で何を学んだか、たとえ示現を見ることはなくても祈りに対する答えを得るためにはどうすればよいか、また聖典からどのような導きが得られるかといった事柄について話し合います。スー・バレット、教会機関誌

あなたの大好きな家庭の夕べ

あなたの大好きな家庭の夕べの説明文を liahona@ldschurch.org までお寄せください。



「マリヤと復活された主」 ハリー・アンダーソン画

「イエスは〔マリヤ〕に言われた、『女よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか。』

マリヤは、その人が園の番人だと思って言った、

『もしあなたが、あのかたを移したのであれば、どこへ置いたのか、どうぞ、おっしゃって下さい。わたしがそのかたを引き取ります。』

イエスは彼女に『マリヤよ』と言われた。

マリヤはふり返って、イエスに向かってヘブル語で『ラボニ』と言った。それは、先生という意味である。』（ヨハネ 20：15 - 16）



主は復活された後、
御自分の弟子たちに御姿を現してこう言われました。
「『なぜおじ惑っているのか。どうして心に疑いを起すのか。
わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしなのだ。
さわって見なさい。霊には肉や骨はないが、
あなたがたが見るとおり、わたしにはあるのだ。』……
〔そして〕彼ら〔は〕焼いた魚の一きれをさしあげ〔た〕。』
(ルカ24：38 - 39, 42)

「主はよみがえられた」8ページ参照